

岩見沢市農業技術情報施設【土壤分析施設・農業試験圃】

令和7年度 農業試験関係成績書



令和8年3月
岩見沢市

目 次

気 象

- 1 令和7年一般気象・令和7年雪の状況 1
- 2 令和7年農耕期間の気象経過 2

水 稲

- 1 水稲作況調査 3
- 2 そらきらり疎植栽培試験 5
- 3 亜りん酸資材効果検討試験 7
- 4 水稲直播良食味品種比較試験 9
- 5 水稲直播緩効性肥料試験 11
- 6 優良品種展示圃調査成績書 13
- 7 《参考》岩見沢市農業試験圃水稲平年値 14

畑 作

- 1 秋まき小麦品種系統比較試験 15
- 2 秋まき小麦追肥時期検討試験（Ⅰ） 17
- 3 秋まき小麦追肥時期検討試験（Ⅱ） 19
- 4 秋まき小麦赤さび病の越冬前処理効果確認試験 21
- 5 春まき小麦品種系統比較試験 23
- 6 春まき小麦バイオスティミュラント効果確認試験 25
- 7 春まきなたね地域適応性確認試験 27
- 8 春まきなたね施肥法試験 29
- 9 小豆品種系統比較試験 31

園 芸

- 1 たまねぎ品種比較試験 33
- 2 たまねぎ肥料効果検討試験 37
- 3 露地かぼちゃ品種比較試験 41
- 4 露地かぼちゃ栽培改善試験（堆肥施用） 47
- 5 露地かぼちゃ栽培改善試験（放任栽培） 50
- 6 スイートコーン品種比較試験 55
- 7 はくさい品種比較試験（9月どり） 59
- 8 はくさい品種比較試験（10月どり） 61

令和7年 一般気象

岩見沢アメダスデータ

月	平均気温 (°C)		最高気温 (°C)		最低気温 (°C)		日照時間 (h r)		降水量 (mm)	
	平均		平均		平均		合計		合計	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
1月	-3.3	-5.3	-0.2	-1.9	-6.8	-9.2	123.1	90.2	84.0	119.4
2月	-2.7	-4.6	0.8	-0.9	-6.6	-8.9	116.2	111.3	68.0	85.5
3月	0.6	-0.4	4.2	3.5	-3.1	-4.5	149.7	161.9	51.5	59.4
4月	7.1	6.1	12.3	11.2	2.6	1.3	123.5	176.6	109.5	52.7
5月	13.9	12.1	19.8	17.7	8.2	7.1	232.9	196.5	64.5	83.9
6月	19.6	16.3	25.1	21.7	15.0	12.0	199.7	173.6	50.5	69.5
7月	24.8	20.2	30.2	25.1	20.9	16.6	198.4	156.2	82.0	111.5
8月	23.7	21.3	28.5	26.1	19.6	17.6	166.4	158.8	76.5	161.1
9月	19.4	17.4	24.5	22.4	14.4	12.9	189.4	161.9	212.0	142.2
10月	10.2	10.8	14.8	15.7	5.9	6.2	125.0	138.5	121.0	110.4
11月	4.2	3.9	8.2	7.6	0.1	0.2	82.4	84.7	113.5	118.8
12月	-1.1	-2.6	2.1	0.5	-4.0	-6.0	53.7	69.0	114.5	144.5
5~9月 積算	3,102	2,667	—	—	—	—	986.8	847.0	485.5	568.2

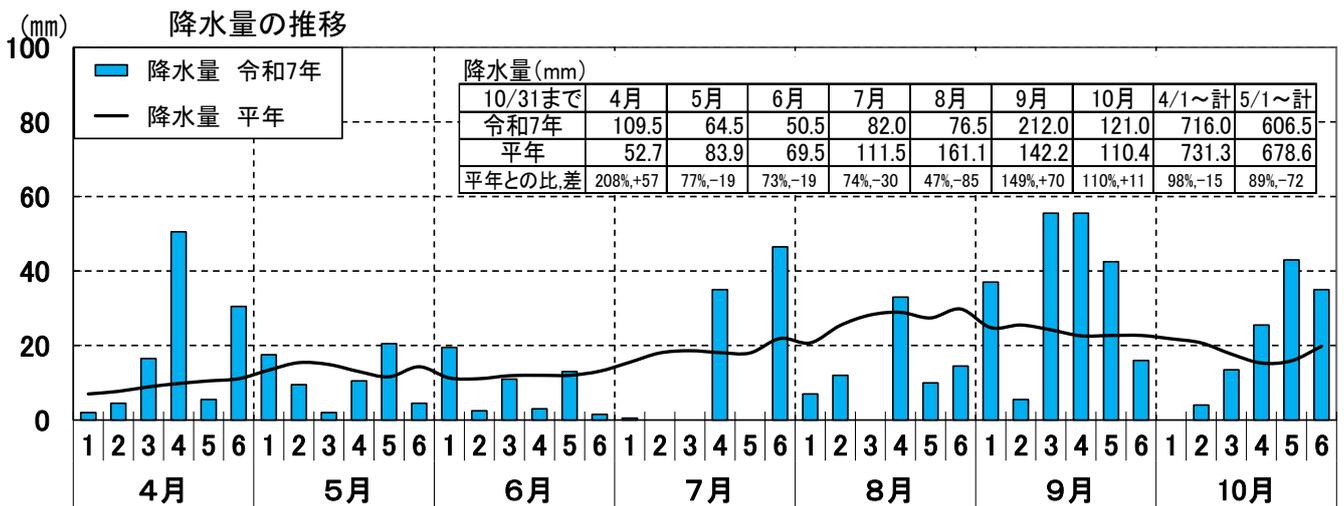
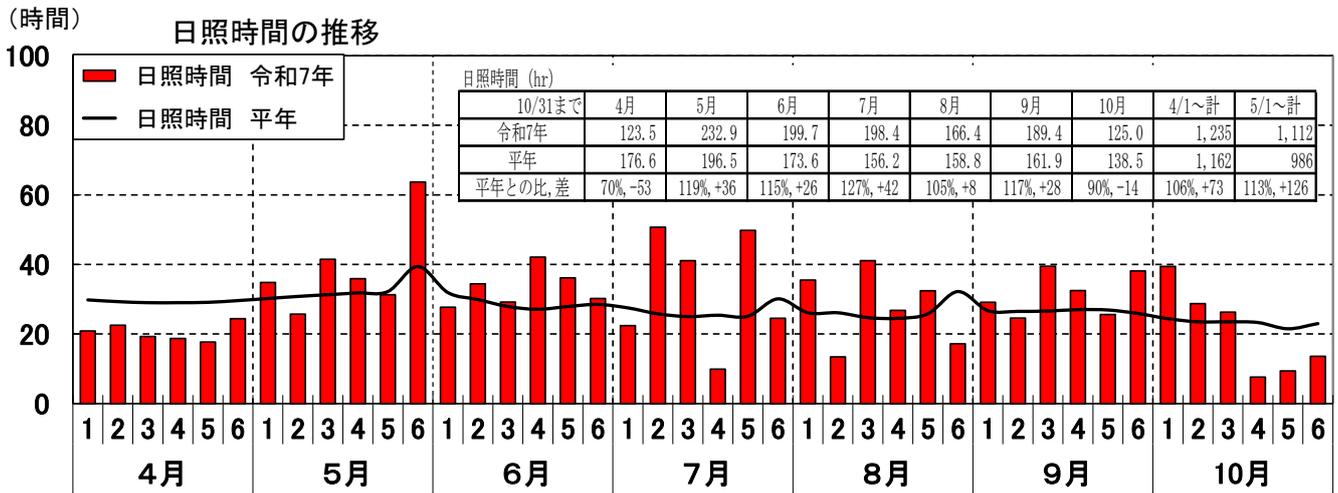
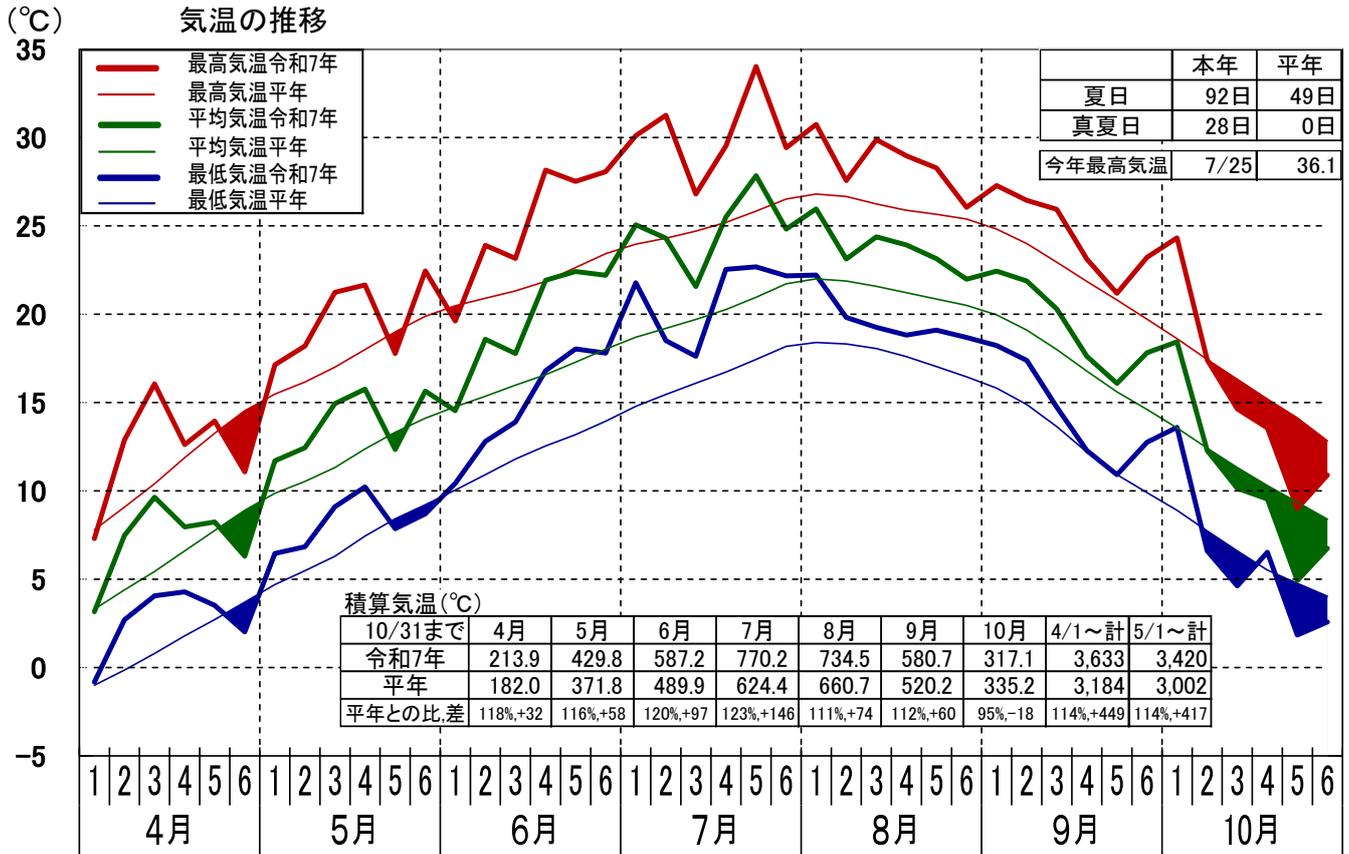
令和7年 雪の状況

年	最深積雪	同左月日	根雪終	初雪	根雪始
平年値	97cm	2/17	4/6	10/30	12/1
令和7年	149cm	1/5	4/6	10/24	12/2

平年値：最深積雪はアメダス平年値。その他は札幌管区気象台の公表値。
 令和7年：令和7年1~12月のデータ（元データはアメダス値および札幌管区気象台公表値）

令和7年 農耕期間の気象経過

平年値：アメダス平年(平成3年～令和2年平均：気象庁)



水稻作況調査

- 1 試験目的：主要品種の育苗型式別に生育経過や収量等を調査し、技術対策の基礎資料とする。
- 2 試験方法
 - (1) 育苗型式：成苗ポット、中苗マット
 - (2) 品種：ななつぼし、ゆめぴりか、きらら397、そらきらり
 - (3) 面積及び区数：1区43～64㎡、反復なし
 - (4) 耕種概要：表1 播種・施肥、表2 除草剤使用状況、表3 病虫害防除
- 3 結果の要約
 - (1) 育苗期は、出芽、生育ともほぼ順調であった。初期生育も順調で、幼穂形成期は成苗でほぼ平年並み、中苗で4～7日早くなった。(表4)
 - (2) 7月以降は高い気温で推移し、出穂期は成苗で平年比5～6日、中苗で8～11日、成熟期は成苗で8～11日、中苗で13～19日ほど早くなった。登熟の経過は良かった。(表4)
 - (3) 成熟期は、穂数がどの品種においても少なく、一穂粒数は中苗ゆめぴりかを除き並～微増、総粒数はどの品種も極端に少なくなった。不稔歩合は、平年並みの中苗ななつぼしを除き4.4～9.9%と平年より低かった。(表5)
 - (4) 病虫害については、いもち病は見られず、心配されたカメムシ被害も少なかった。
 - (5) 精玄米重は、中苗きらら(平年比100%)以外は平年比85～96%と低くなった。(表6)
 - (6) 品質は、タンパクがどの品種も高くなったが、品位は問題なかった。(表6)
 - (7) 新品種「そらきらり」は、きららに比べ成熟期で1～2日遅く、精玄米重は成苗130%、中苗112%と多収であった。タンパク値から見て増肥によりさらに多収が可能と思われた。

表1 播種・施肥

育苗型式	播種日	播種量	移植日	栽植密度		肥料区分	施肥量(kg/10a)		
				畦幅×株間(cm)	㎡当株数		窒素	りん酸	加里
成苗ポット	JAいわみざわ提供			33×13	23.3	全層BB293	3.25	5.15	3.52
						側条444	3.25	3.25	3.25
中苗マット	4/24	180cc/箱	5/23 播種～29日	33×12	25.3	計	6.50	8.40	6.77

※上記のほか中苗マット播種時、培土にエコロンGを施肥(90g/箱)

表2 除草剤使用状況

6/5	センメツフロアブル	500ml/10a
-----	-----------	-----------

表3 病虫害防除

1回目	7/23	ダブルカットトレボンFL	1,000倍
2回目	7/31	ブラシダントツFL	1,000倍
3回目	8/8	トレボン乳	1,000倍

表4 生育調査・生育期節

区分	苗形質調査(5/22)							初期生育調査(6/25)			生育期節(月/日)		
	草丈(cm)	第一鞘高(cm)	葉数	分けつ(本)	乾物重(g)	充実度(g/cm)	草丈(cm)	茎数(本)		幼形期	出穂期	成熟期	
								株当	m ² 当				
成苗	ななつぼし	15.5	2.1	4.1	0.3	3.40	0.219	43.2	18.3	427	6/26	7/17	8/27
	ゆめぴりか	9.9	2.2	3.8	0.8	3.42	0.345	42.9	17.9	417	6/25	7/16	8/26
	きらら397	13.2	2.1	4.7	1.5	3.90	0.295	43.2	16.8	392	6/27	7/18	8/28
	そらきらり	16.5	2.2	4.2	1.0	3.78	0.229	49.2	17.3	403	6/28	7/20	8/30
中苗	ななつぼし	18.2	3.1	4.0	0.1	3.28	0.180	50.7	20.2	510	6/26	7/18	8/28
	ゆめぴりか	21.6	2.8	3.8	0.0	2.44	0.113	43.1	22.2	561	6/26	7/17	8/27
	きらら397	14.0	2.2	4.5	0.8	3.86	0.276	45.7	17.1	432	6/27	7/17	8/27
	そらきらり	16.7	2.5	3.9	0.0	2.84	0.170	50.1	20.3	513	6/28	7/18	8/28

表5 成熟期調査・収量構成要素

区分	成熟期調査(8/28)					一穂 粒数	m ² 当 総粒数 (千粒)	不稔 歩合 (%)	粒厚分布(mm・%)			
	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数(本)		1.85<							
			株当	m ² 当					>1.95	>1.90	>1.85	
成苗	ななつぼし	69.3	16.6	18.9	441	58.6	25.8	4.5	95.3	1.2	1.1	2.0
	ゆめぴりか	66.7	16.7	21.9	510	57.7	29.5	4.5	90.4	3.3	2.4	3.4
	きらら397	73.0	17.1	18.6	434	59.3	25.7	4.4	95.3	1.3	1.1	2.1
	そらきらり	65.2	15.6	17.8	415	69.9	29.0	4.4	96.4	0.7	0.9	1.6
中苗	ななつぼし	75.4	17.3	21.2	535	56.7	30.4	9.9	96.6	0.8	1.4	8.0
	ゆめぴりか	67.8	16.4	21.5	543	42.7	23.2	5.3	91.0	3.0	2.3	3.2
	きらら397	72.4	16.4	20.7	523	54.0	28.2	6.6	95.0	1.3	1.2	2.2
	そらきらり	68.0	17.3	24.2	611	79.8	48.8	3.6	96.1	0.7	0.8	2.1

表6 収量調査・品質調査

区分	10a 当り収量(kg)						籾摺 歩合 (%)	千粒重 (g)	タン パク (%)	アミ ロース (%)	検査 等級	
	総重	籾重	粗玄 米重	精玄 米重	平年 比	屑米重						
成苗	ななつぼし	1,191	666	558	532	94	11	81.6	23.4	7.9	-	1
	ゆめぴりか	1,331	713	581	525	96	20	79.5	24.4	8.0	-	1
	きらら397	1,211	672	560	534	85	12	81.3	25.3	8.6	-	1
	そらきらり	1,524	858	720	694	109	12	82.5	24.1	7.0	-	1
中苗	ななつぼし	1,271	698	584	564	89	8	81.9	24.0	8.0	-	1
	ゆめぴりか	1,291	694	569	518	87	18	80.4	24.9	8.2	-	1
	きらら397	1,423	780	645	613	100	14	81.3	25.3	8.5	-	1
	そらきらり	1,511	863	715	687	101	15	81.8	24.7	7.4	-	1

※10a 当り収量及び千粒重は、水分15%補正(総重、籾重を除く)。精玄米重は、粒厚1.95mm以上。

※平年比は試験圃平年比(そらきらりは昨年比)

※タンパク含有率、アミロース、検査等級はJA調査値による。

そらきらり疎植栽培試験

1 試験目的：新品種そらきらりの疎植栽培による増収効果を確認する。(2年目)

2 試験方法

- (1) 育苗型式：中苗マット
- (2) 品 種：そらきらり
- (3) 面積及び区数：1区64㎡、試験区のみ2反復
- (4) 疎植方法：試験区 株間14cm、慣行区 株間12cm
- (5) 耕種概要：表1 移植・施肥、表2 除草剤使用状況、表3 病虫害防除

3 結果の要約

- (1) 10a当り収量は、精玄米重で疎植区が慣行区に比べ114%の増収となった。(表6)
- (2) 生育の過程においては、初期生育の分けつが進まずやや茎数が不足ぎみであったが、成熟期の穂数は550本/㎡弱と一定以上の本数に回復した。区による差はあまりなかった。(表4・5)
- (3) 成熟期調査では、疎植区が慣行区と比べ一穂粒数が少ないことにより㎡当り総粒数も若干少なくなったが、その他の要素に大きな違いはなかった。(表5)
- (4) タンパク、千粒重、検査等級はほぼ同等だった。(表6)
- (5) 考 察

当場の所有田植機でできる範囲での疎植試験であったが、株間12cmと14cmではやはり大きな差を表せる試験とはならなかった。昨年の試験においても途中経過での違いを明らかにできなかったが、結果収量では2か年とも疎植区が増収となっていることから適度な疎植で増収を実現できる可能性は高いと考えられる。

表1 移植・施肥

育苗型式	移植日	栽植密度		肥料区分	施肥量(kg/10a)		
		畦幅×株間(cm)	㎡当株数		窒素	りん酸	加里
中苗 マット	5/23	33×試14 慣12	試21,645 慣25,253	全層BB293	3.25	5.15	3.52
				側条444	3.25	3.25	3.25
				計	6.50	8.40	6.77

表2 除草剤使用状況

6/5	センメツフロアブル	500ml/10a
-----	-----------	-----------

表3 病虫害防除

1回目	7/23	ダブルカットトレボンFL	1,000倍
2回目	7/31	ブラシンジョーカーFL	1,000倍
3回目	8/8	トレボン乳	1,000倍

表4 生育調査・生育期節

区分	苗形質調査(5/24)						初期生育調査(6/25)			生育期節(月/日)		
	草丈 (cm)	第一 鞘高 (cm)	葉数	分けつ (本)	乾物重 (g)	充実度 (g/cm)	草丈 (cm)	茎数(本)		幼形期	出穂期	成熟期
								株当	m ² 当			
疎植	16.7	2.5	3.9	0.0	2.84	0.17	47.4	18.3	396	6/28	7/18	8/28
慣行							45.9	17.8	385	6/28	7/18	8/28

表5 成熟期調査・収量構成要素

区分	成熟期調査(8/28)				一穂 穂数	m ² 当 総穂数 (千粒)	不稔 歩合 (%)	粒厚分布(mm・%)			
	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数(本)					>1.95	>1.90	>1.85	1.85<
			株当	m ² 当							
疎植	69.8	16.5	25.4	549	67.4	37.2	5.0	97.4	0.5	0.6	1.2
慣行	75.6	17.2	25.2	545	72.1	39.3	7.7	97.1	0.6	0.6	1.4

表6 収量調査・品質調査

区分	10a 当り収量(kg)						籾摺 歩合 (%)	千粒重 (g)	タン パク (%)	アミ ロース (%)	検査 等級
	総重	籾重	粗玄 米重	精玄 米重	比	屑米 重					
疎植	1,426	785	656	639	114	8	82.2	24.9	7.2	-	1
慣行	1,241	689	578	561	100	8	82.1	24.8	7.1	-	1

※10a 当り収量は、水分 15%補正(総重、籾重を除く)。精玄米重は、粒厚 1.95 mm以上。

※タンパク含有率、アミロース、検査等級は JA 調査値による。

亜りん酸資材効果検討試験

1 試験目的：亜りん酸入り肥料の効果を検討する。(2年目)

2 試験方法

- (1) 育苗型式：中苗マット
- (2) 品 種：ゆめぴりか
- (3) 面積及び区数：1区 64 m²、反復なし
- (4) 供試資材：①亜りん酸入り側条 400 (N14-P₂O₅10-K₂O10) ※亜りん酸入り肥料
 ②亜りん酸入り側条 407 (N14-P₂O₅10-K₂O17)
 ③慣行 側条 444
- (5) 耕種概要：表1 播種・施肥、表2 除草剤使用状況、表3 病虫害防除

3 結果の要約

- (1) 10a 当たり収量は、亜りん酸入り側条 400 区、亜りん酸入り側条 407 区とも慣行区に比べ 86%、84%と低くなった。(表6)
- (2) 生育の過程では、初期生育調査で亜りん酸入り側条 400 区の茎数が慣行区より多く、成熟期では亜りん酸入り側条 407 区の穂数が慣行区より優った。(表4・5)
- (3) 収量構成の各要素において、一穂粒数は亜りん酸入り側条両区とも慣行区より少なく、総粒数では亜りん酸入り側条 407 区が慣行区より多くなった。不稔歩合は、亜りん酸入り側条両区とも慣行区より若干多くなった。(表5)
- (4) 品質では、亜りん酸入り側条両区のタンパクが慣行区より低くなり、千粒重に違いはなかった。(表6)
- (5) 考 査

亜りん酸入り側条肥料の利用により初期生育の肥効向上、分けつの向上等を期待したが、効果は見られなかった。むしろ、10a 当り収量、タンパク値から見て窒素吸収が抑えられた可能性も見える。他地域の試験で成果が表れている場合もあるので、試験方法等を精査し再度試験を実施したい。

表1 播種・施肥(慣行)

育苗型式	播種日	播種量	移植日	栽植密度		試験区分	施肥量(kg/10a)		
				畦幅×株間 (cm)	m ² 当株数		窒素	りん酸	加里
中苗 マット	4/24	180cc/箱	5/23 播種~29日	33×12	25.3	慣行 全層 BB293+側条 444	6.5	8.4	6.8
						試①全層 BB293+側条亜りん酸 400	6.5	7.5	5.8
						試②全層 BB293+側条亜りん酸 407	6.5	7.5	7.5

※上記のほか播種時、培土にエコロングを施肥(90g/箱)

表2 除草剤使用状況

6/5	センメツフロアブル	500 ml/10a
-----	-----------	------------

表3 病害虫防除

1回目	7/23	ダブルカットトレボンフロアブル	1,000倍
2回目	7/31	ブラシンジョーカーフロアブル	1,000倍
3回目	8/8	トレボン乳剤	1,000倍

表4 生育調査・生育期節

区分	苗形質調査(5/24)						初期生育調査(6/25)			生育期節(月/日)		
	草丈(cm)	第一鞘高(cm)	葉数	分けつ(本)	乾物重(g)	充実度(g/cm)	草丈(cm)	茎数(本)		幼形期	出穂期	成熟期
								株当	m ² 当			
試験① 亜りん酸 400	21.6	2.8	3.8	0.0	2.44	0.113	44.4	24.2	611	6/26	7/17	8/27
試験② 亜りん酸 407							43.7	18.5	467	6/26	7/17	8/27
慣行							45.6	20.0	505	6/26	7/17	8/27

表5 成熟期調査・収量構成要素

区分	成熟期調査(8/28)				一穂 穂数	m ² 当 総穂数 (千粒)	不稔 歩合 (%)	粒厚分布(mm・%)			
	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数(本)					>1.95	>1.90	>1.85	1.85<
			株当	m ² 当							
試験① 亜りん酸 400	83.9	18.1	23.0	581	44.8	26.0	5.7	89.2	3.7	2.7	3.9
試験② 亜りん酸 407	85.2	17.6	26.5	669	44.7	29.9	7.2	90.7	3.1	2.4	3.4
慣行	77.9	17.4	22.3	563	46.2	26.0	4.0	90.3	3.3	2.5	3.6

表6 収量調査・品質調査

区分	10a 当り収量(kg)						籾摺 歩合 (%)	千粒重 (g)	タンパ ク(%)	アミロ ース(%)	検査 等級
	総重	籾重	粗玄 米重	精玄 米重	比	屑米 重					
試験① 亜りん酸 400	1,243	636	518	462	86	20	79.8	24.2	7.7	-	1
試験② 亜りん酸 407	1,162	611	494	448	84	17	79.5	24.5	7.7	-	1
慣行	1,338	721	592	535	100	21	80.2	24.5	8.0	-	1

※10a 当り収量は、水分 15%補正(総重、籾重を除く)。精玄米重は、粒厚 1.95 mm以上。

※タンパク含有率、アミロース、検査等級は JA 調査値による。

水稻直播良食味品種比較試験

1 試験目的：乾田直播における良食味新品種の生育ステージと収量性を確認し、今後の直播栽培の資とする。(8年目)

2 試験方法

- (1) 栽培方式：乾籾ドリル播種による乾田直播 連作3年目
- (2) 品種：空育198号(初年目)、対照～えみまる
- (3) 面積及び区数：1区えみまる90㎡、空育198号78㎡、2反復
- (4) 耕種概要：表1 播種・施肥、表2 除草剤使用状況、表3 病虫害防除

3 結果の要約

- (1) 空育198号の10a当たり収量は、569kgでえみまる対比135%となった。(表6)
- (2) 生育状況は、出芽が6/5でえみまるの2日遅れ、㎡当り苗立数は208本と200本以上を確保したが、出芽率はえみまるより劣った。成熟期まで1日遅れの生育で経過し、成熟期調査の稈長は78cmとえみまるより4cm低く、㎡当り穂数は536本と612本のえみまるより少なかった。(表4)
- (3) 収量構成要素は、一穂粒数が若干少なく、㎡当総粒数も23.4千粒とえみまる(28.0千粒)よりかなり少なかった。不稔歩合は、えみまる15.3%に対し8.3%と少なかった。(表5)
- (4) 品質については、千粒重がえみまる23.1gに対し26.2gと大きく、籾摺歩合も81.3%とえみまる(66.6%)を大きく上回った。(表6)
- (5) 考察

本年は、春の天候不順により遅い播種日となり、かつ播種以降は高温で推移したため分けつが十分に得られず早く仕上がるといった中での試験となった。空育198号は、短稈で倒伏しにくい、千粒重が大きいいため歩留りが良く高収が望めるなど有望と思われる。食味アンケートでは、ゆめぴりかと並んで空育198号を好みと答えた人が多く、この点でも有望性が高い。

表1 播種・施肥

播種日	播種量(kg/10a)	畦幅(cm)	施肥量(kg/10a)				
			肥料名		窒素	りん酸	加里
5/16	えみまる 9.4	12.5 (条播)	基肥(5/13)		10.0	10.0	4.7
			Dd778	58.8kg			
	空育198号 12.9		5葉期追肥(6/20)		4.0	-	-
			尿素	8.7kg	14.0	10.0	4.7
合計							

表2 除草剤使用状況

6/3	サターン乳剤 ノミニー液剤	1,000 ml 150 ml
6/20	イッセン豆つぶ 250	250g

表3 病虫害防除

7/29	ダブルカットトレボンフロアブル	1,000倍
8/5	ブラシダントツフロアブル	1,000倍

表4 生育調査・生育期節

区分	出芽日	m ² 苗立数 (本)	生育期節(月/日)			成熟期調査(8/31)		
			止葉期	出穂期	成熟期	稈長 (cm)	穂長 (cm)	m ² 当 穂数(本)
空育198号	6/5	208	7/21	7/27	9/10	78	16.3	536
えみまる	6/3	234	7/20	7/26	9/9	82	15.9	612

表5 成熟期調査・収量構成要素

区分	一穂 籾数	m ² 当 総籾数 (千粒)	不稔 歩合 (%)	粒厚分布(mm・%)			
				>1.95	>1.90	>1.85	1.85<
空育198号	43.7	23.4	8.3	-	-	-	-
えみまる	45.8	28.0	15.3	-	-	-	-

表6 収量調査・品質調査

区分	10a 当り収量(kg)						籾摺 歩合 (%)	千粒重 (g)	タンパ ク(%)	アミロ ース(%)	検査 等級
	総重	籾重	粗玄 米重	精玄 米重	比	屑米重					
空育198号	1,470	700	-	569	135	20	81.3	26.2	-	-	-
えみまる	1,500	635	-	423	100	99	66.6	23.1	-	-	-

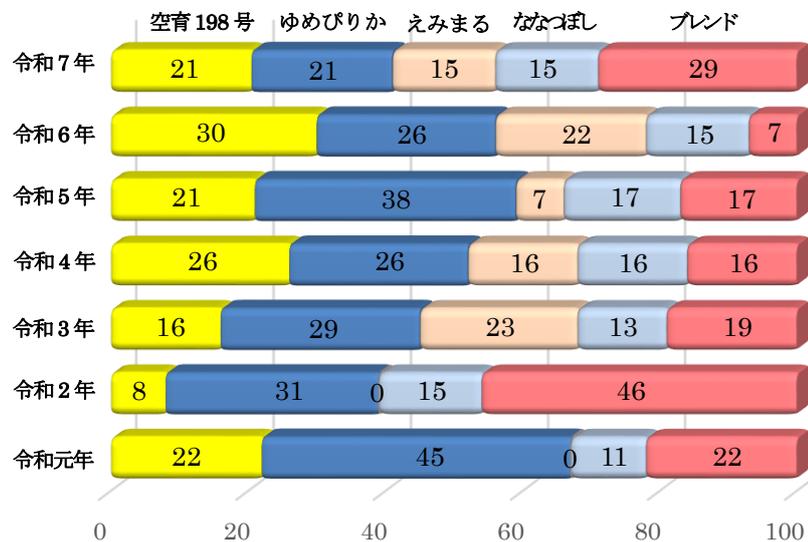
※10a 当り収量は、水分15%補正(総重、籾重を除く)。精玄米重は、粒厚1.95mm以上。

《参考》 2025年 食味「どれが好き？」アンケートの結果

- 実施方法 品種：①えみまる ②空育198号 ③ゆめぴりか ④ななつぼし ⑤ブレンド
- 方法：品種をブラインドにし、好みを答えてもらう
- 結果(有効回答34(100%))

品 種	空育198号 タンパク7.1	ゆめぴりか タンパク7.9	えみまる タンパク7.8	ななつぼし タンパク8.0	ブレンド (ななつ15、そらきら り30、えみま20、 その他35) タンパク7.5前後
回答数	7 (21)	7 (26)	5 (15)	5 (15)	10 (29)

【7年間の結果】



【総評】

- 今年は、昨年同様タンパクがやや高かったにもかかわらずどれもねばりが強く感じられ、評価がバラけた。
- その中では、「ブレンド」の評価が高く、次いで「ゆめぴりか」と並んで新品種「空育198号」の得票が多かった。

※空育198号は、令和6年まで「さんさんまる」

水稻直播緩効性肥料試験

1 試験目的：プラスチック被覆によらない緩効性肥料の施肥体系を検討する。(4年目)

2 試験方法

(1) 栽培方式：乾籾ドリル播種による乾田直播

(2) 品種：えみまる

(3) 面積及び区数：1区 90 m²、2反復

(4) 供試肥料び区分：UF894(18(UF7%) -9-14)

①試験区 基肥 Dd778(窒素 10kg/10a) + 4葉期(6/20)追肥 UF894 (窒素 4kg/10a)

②慣行区 基肥 Dd778(窒素 10kg/10a) + 5葉期(6/26)追肥 尿素(窒素 4kg/10a)過石、塩加

(5) 耕種概要：表1 播種・施肥、表2 除草剤使用状況、表3 病虫害防除

4 結果の要約

(1) 収量は、試験区が慣行区に比べ111%と上回った。(表6)

(2) 生育の経過は、試験区の茎数が慣行区を上回って推移し、成熟期調査の穂数も123%と多かった。稈長、穂数には差がなかった。m²当総籾数でも試験区が32%上回った。(表4・5)

(3) 品質については、タンパク値が慣行区7.1に対し試験区7.7と高くなった。(表6)

(4) 考察

4葉期 UF 追肥区は、5葉期尿素追肥に比べ分けつピークから成熟期にかけての減数割合が少なく経過して穂数も多く、収量も高い(タンパク値もやや高かった)結果となった。また、葉色も途中褪めることなく経過したため、本年の気象条件の中では十分にねらいどおりの結果を得られた。しかし、除草剤使用時期の遅れによる残草の問題もあったため、次年度3葉期 UF 追肥で再度効果を確認する。

表1 播種・施肥

播種日	播種量 (kg/10a)	畦幅 (cm)	施肥量 (kg/10a)			
			肥料名	窒素	りん酸	加里
5/16	9.4	12.5(条播)	基 肥(5/13) Dd778	10.0	10.0	4.7
			4葉期追肥(6/20) UF894	4.0	2.0	3.1
			5葉期追肥(6/26) 尿素 過石 塩加	4.0	2.0	3.0
			合 計	14.0	12.0	7.7

表2 除草剤使用状況

6/3	ノミニー液剤 (150 ml/10a) +サターン乳剤 (1000 ml/10a)
6/2	イッセン豆つぶ 250 (250g/10a)

表3 病虫害防除

7/29	ダブルカットトレボンフロアブル	1,000倍
8/5	ブラシダントツフロアブル	1,000倍

表4 生育調査・生育期節

追肥区分	出芽日	6/9 調査		6/25 調査		7/2 調査		7/23 調査		生育期節			
		m ² 当 苗立数	草丈 (cm)	m ² 当 茎数	草丈 (cm)	m ² 当 茎数	草丈 (cm)	m ² 当 茎数	幼形期	止葉期	出穂期	成熟期	
①試験区 4葉期UF	6/3	234	24	512	37	1,016	70	792	7/5	7/20	7/25	9/9	
②慣行区 5葉期尿素	6/3	234	26	432	41	912	74	684	7/5	7/21	7/25	9/9	

表5 成熟期調査・収量構成要素

区 分	成熟期調査 (8/31)			一穂 粒数	m ² 当 総粒数 (千粒)	不稔歩合 (%)	粒厚分布(mm・%)		
	稈長 (cm)	穂長 (cm)	m ² 当 穂数				>1.90	>1.85	1.85<
①試験区 2葉期UF	81.2	15.9	752	49.1	36.9	8	84	9	7
②慣行区 5葉期尿素	81.9	15.9	612	45.8	28.0	15	81	11	8

表6 収量調査・品質調査

区 分	10a 当り収量(g)				千粒重 (g)	タンパク (%)	検査 等級
	粗玄米重	精玄米重	比	屑米重			
①試験区 2葉期UF	562	468	111	94	23.4	7.7	1
②慣行区 5葉期尿素	522	423	100	99	23.1	7.1	1

※10a 当り収量は、水分15%補正。精玄米重は、粒厚1.90mm以上。

※タンパク含有率、検査等級は普及センター調査値による

優良品種展示圃調査成績書

No.	品種名	命名年	育成地	出穂月日	成熟月日	10a 当り収量 (kg)			千粒重 (g)
						粗玄米重	精玄米重		
							1.95 mm上	1.85 mm上	
1	赤毛	-	-	7/15	8/25	319	276	293	23.5
2	富国	1935	上川	7/19	8/29	477	465	466	25.6
3	農林20号	1941	北海	7/15	8/25	446	430	433	25.8
4	石狩白毛	1941	上川	7/15	8/27	359	349	351	23.7
5	ユーカラ	1962	北海	7/22	9/2	458	447	449	25.6
6	そらち	1967	空知	7/19	8/29	481	471	473	24.6
7	キタヒカリ	1975	北海	7/18	8/28	456	441	445	25.8
8	ゆきひかり	1984	空知	7/18	8/28	457	434	440	25.2
9	彩	1991	道北	7/18	8/28	468	445	450	25.9
10	ほしのゆめ	1996	上川	7/16	8/26	453	426	433	25.1
11	あやひめ	2000	上川	7/17	8/26	561	538	544	24.6
12	ふっくりんこ	2002	渡島	7/18	8/28	488	456	465	25.9
13	おぼろづき	2003	北海	7/17	8/27	436	389	403	24.3
14	えみまる	2019	上川	7/15	8/25	466	435	444	25.2
15	さんさんまる	2018	北海	7/18	8/28	410	396	400	25.4
16	吟風	1999	空知	7/18	8/28	528	515	518	27.2
17	彗星	2006	空知	7/17	8/27	502	492	494	28.0
18	たちじょうぶ	2011	北海	7/23	9/3	706	669	675	24.7
19	北瑞穂	2012	北海	7/20	8/30	640	605	612	25.1
20	紫稲	-	-	7/17	8/27	504	474	480	23.9

耕種概要

育苗法	播種日	移植日	施肥量 (kg/10a)			栽培密度		防除
			窒素	りん酸	加里	畦幅×株間 (cm)	m ² 当たり株数(株)	
中苗マット	4/24	5/23	7.0	11.0	7.5	33×14	21.6	3回

＜参 考＞岩見沢市農業試験圃水稻平年値(令和元年～令和7年の7中5)

品種 \ 品種 【直播】	成苗			中苗			直播		
	ななつぼし	きらら397	ゆめびりか	ななつぼし	きらら397	ゆめびりか	えみまる	さんさんまる	
播種日	4/19	4/19	4/19	4/26	4/24	4/24	5/10	5/8	
移植日 【出芽日】	5/23	5/23	5/23	5/24	5/23	5/23	5/31	6/1	
育苗日数	34	34	34	28	28	28			
苗質	草丈 (cm)	18.90	17.30	19.10	13.10	11.00	14.80		
	第一鞘高 (cm)	2.40	2.30	2.40	2.90	2.10	2.90		
	葉数	4.70	4.90	4.80	3.30	3.10	3.60		
	分けつ数	1.20	1.40	1.30	0.40	0.40	0.20		
	乾物量 (g)	5.38	4.58	5.38	2.16	2.20	2.42		
	充実度	0.29	0.27	0.30	0.17	0.16	0.17		
活着期	5/28	5/28	5/28	5/29	5/29	5/29			
分づけ始期	6/6	6/5	6/6	6/6	6/5	6/6			
初期成育	調査月日	6/22	6/22	6/22	6/21	6/22	6/22	6/21	6/21
	草丈 (cm)	43.60	39.50	43.80	33.90	36.40	38.00	27.10	16.30
	茎数/株 【苗立数】	14.60	16.40	14.20	17.40	20.70	16.50	26.30	22.60
7/1	茎数/m ²	341.00	382.00	331.00	40.00	523.00	406.00	289.00	318.00
	草丈 (cm)	53.70	46.70	54.70	43.50	42.90	46.20		
	茎数/株	21.00	22.20	21.40	25.80	30.30	26.20		
8/1	茎数/m ²	490.00	517.00	498.00	650.00	765.00	663.00		
	草丈 (cm)	89.50	84.60	87.00	88.40	88.80	88.10		
	茎数/株	24.40	23.70	24.50	27.00	28.40	26.60		
茎数/m ²	568.00	553.00	571.00	683.00	717.00	672.00			
幼形期	6/25	6/27	6/24	6/30	7/1	6/28	7/9	7/13	
止形期	7/9	7/13	7/10	7/17	7/14	7/12			
出穂始	7/20	7/20	7/17	7/26	7/23	7/21	7/29	8/1	
出穂期	7/22	7/22	7/20	7/28	7/25	7/23	7/31	8/3	
出穂揃	7/25	7/25	7/22	7/30	7/27	7/25	8/4	8/7	
成熟期	9/5	9/4	9/1	9/12	9/7	9/4	9/18	9/23	
成熟期	稈長 (cm)	705.00	66.80	66.30	72.80	68.40	68.20	71.40	63.30
	穂長 (cm)	17.00	17.30	16.90	16.50	17.00	163.80	15.40	15.50
	穂数/株 【/m ² 】	22.60	22.80	23.80	25.60	26.10	24.50	93.00	108.00
	穂数/m ²	527.00	531.00	556.00	646.00	659.00	618.00	733.00	742.00
一穂穂数	60.60	54.30	54.30	53.30	51.90	49.40	51.40	50.40	
穂数/m ² (千粒)	31.60	28.60	30.00	34.20	33.80	30.50	38.50	36.80	
不稔歩合 (%)	5.80	6.50	5.40	9.50	6.80	6.00	8.00	9.70	
(10a 収穫調査)	総量 (kg)	1,315.00	1,338.00	1,262.00	1,424.00	1,432.00	1,371.00	1,340.00	1,388.00
	籾量 (kg)	737.00	764.00	702.00	815.00	827.00	763.00	698.00	770.00
	粗玄米量 (kg)	609.00	631.00	571.00	673.00	675.00	621.00	707.00	635.00
	精玄米量 (kg)	567.00	589.00	523.00	629.00	618.00	569.00	604.00	564.00
	屑米量 (kg)	20.00	20.00	20.00	23.00	32.00	22.00	56.00	35.00
	籾摺歩合 (%)	81.70	81.30	80.20	81.90	80.60	80.60	80.10	81.30
千粒量(g)	23.40	24.80	24.50	23.20	24.80	24.20	23.40	24.50	
粒厚分布	>1.95 (%)	93.00	93.50	91.60	93.50	91.60	91.50	86.60	89.00
	>1.90 (%)	1.50	1.40	2.50	1.30	1.70	2.40	4.00	2.80
	>1.85 (%)	1.50	1.30	2.10	1.20	1.60	2.00	5.10	2.40
	1.85< (%)	3.40	3.20	3.50	3.30	4.70	3.40	5.90	5.50
タンパク (%)	7.60	8.10	7.90	7.40	8.20	7.60	6.80	7.00	
アミロース (%)	17.10	17.80	15.70	17.50	17.20	15.00	18.70	18.20	

秋まき小麦品種系統比較試験

1 試験目的：秋まき小麦の品種系統の地域適応性を検討する。

2 試験方法

- (1) 品 種：北見 102 号(初年目：強力)、耐縞萎縮病、耐うどんこ病、対照：ゆめちから
きたほなみ R(北見 99 号、4 年目：中力)、耐縞萎縮病、対照：きたほなみ
- (2) 面積及び区数：1 区面積 7.2 m²、2 反復
- (3) 耕 種 概 要：表 1 播種、表 2 窒素施肥、表 3 防除

4 結果の要約

- (1) 北見 102 号は、生育において止葉期でゆめちから対比 2 日遅れとなったものの成熟期は同日 (7/11)、茎数が多い状態で推移し、成熟期における稈長は 5 cm 短稈で m² 当り穂数は 40% ほど多かった。10a 当りの収量は、ゆめちから比 105% と優り、千粒重、容積重はほぼ同等、タンパク値はやや低かった。(表 4・5)
病害の状況では、赤さび病がゆめちからと同様微発生であったが、うどんこ病は発生したもののゆめちからより少なかった。(表 4)
- (2) きたほなみ R は、収量、生育、品質等きたほなみと同等であった。(表 4・5)
- (3) 考 察
北見 102 号は、収量、千粒重などがゆめちからと同等以上で大きな弱点が見えなかったことから、普及性は高いと思われる。
4 年目のきたほなみ R(北見 99 号)は、昨年引き続き収量性、品質ともきたほなみに比べて大きな違いはなく、これもきたほなみとの置き換えが十分に可能であると思われる。

表 1 播種

前作物	播 種			畦幅
	月日	量	方法	
春小麦	9/25	強力 280 粒/m ² 中力 175 粒/m ²	手押し式 播種機	30 cm

表 2 窒素施肥 (kg/10a)

時期	窒素量	摘要
基 肥 (9/24)	4.0	BB850M
起生期 (4/11) 強力のみ	6.3	硫安
幼形期 (強力 5/1) (中力 5/6)	6.3	硫安
止葉期 (5/20)	4.2	硫安

表 3 防除

月 日	対象病害虫	使用薬剤
5/16	赤さび病 うどんこ病	ミリオネアフロアブル(4,000 倍) カッシーニフロアブル(3,000 倍)
6/ 9	赤かび病	プロラインフロアブル(2,000 倍)
6/16	赤かび病 赤さび病	ミラビスフロアブル(1,500 倍) アミスターフロアブル(2,000 倍)
6/20	赤かび病 赤さび病	シルバキュアフロアブル(2,000 倍) ミリオネアフロアブル(4,000 倍)
6/27	赤さび病	ミリオネアフロアブル(4,000 倍) アミスターフロアブル(2,000 倍)

表4 生育調査・病害及び諸障害発生調査

品種名	出芽 良否	上段:生育期節(月/日) 下段:茎数					成熟期における			病害及び諸障害発生程度				
		起生期	幼形期	止葉期	出穂期	成熟期	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	赤さ び病	うどん こ病	赤か び病	穂発 芽	倒伏
北見102号	良	4/10 1,847	- 1,870	5/22 1,430	5/31 -	7/11	79.0	9.5	833	微	微	無	無	無
ゆめちから	良	4/10 1,197	- 1,430	5/20 837	5/30 -	7/11	84.0	9.6	587	微	少	無	無	無
きたほなみR	良	4/10 1,274	- 1,527	5/23 870	6/1 -	7/10	88.0	8.4	750	中	無	無	無	無
きたほなみ	良	4/10 1,344	5/2 1,587	5/23 897	6/1 -	7/10	89.0	8.2	737	中	微	無	無	無

表5 収量・品質調査

品種名	収穫 月日	10a当り収量				品質		
		粗麦重 (kg)	精麦重 (kg)	比率 (%)	歩 留 (%)	千粒重 (g)	容積重 (g/l)	蛋白質 含有率
北見102号	7/16	923	917	105	99.3	45.1	839	14.8
ゆめちから	7/16	881	874	100	99.3	44.9	832	15.9
きたほなみR	7/16	900	856	101	94.8	36.7	818	11.2
きたほなみ	7/16	892	852	100	94.9	37.3	817	11.3

※精麦重: 2.2mm網上。

(参考)

評価項目	用途	基準値	許容値	主な品種名
蛋白質 含有率	菓子・日本めん用小麦	9.7% 以上 11.3% 以下	8.5% 以上 12.5% 以下	きたほなみ、北見95号 きたほなみR
	パン・中華めん用小麦	11.5% 以上 14.0% 以下	10.0% 以上 15.5% 以下	ゆめちから、キタノカオリ (北見102号)
容積重	菓子・日本めん用小麦	840g/l以上	—	きたほなみ、北見95号 きたほなみR
	パン・中華めん用小麦	833g/l以上	—	ゆめちから、キタノカオリ (北見102号)

秋まき小麦追肥法検討試験（Ⅰ）

1 試験目的：秋まき小麦の融雪後の追肥法について検討する。（初年目）

2 試験方法

(1) 供試品種：きたほなみ

(2) 面積及び区数：1区面積7.2㎡、2反復

(3) 追肥方法：慣行－幼形期7日後硫安N6+止葉期硫安N4

試①－起生期硫安N6+止葉期硫安N4 ……起生期追肥の必要性

試②－幼形期硫安N6+幼形期7日後塩安N4 ……塩安による緩効肥効

試③－幼形期硫安N6+幼形期7日後尿素N4 ……塩安の対照

(4) 耕種概要：表1播種、表2窒素施肥、表3防除

3 結果の要約

(1) 10a当りの収量は、慣行に比べて尿素追肥区が96%とやや低い以外大きな違いはなかった。

(表5)

(2) 生育の過程は、施肥時期や肥料成分の違いで試験設計したにもかかわらず、どの区も同じような推移を示し、成熟期穂数も663～867本/㎡と十分確保された。(表4)

(3) 品質は、大きな違いは認められないが塩安追肥区でやや千粒重が小さかった。(表5)

(4) 考察

起生期追肥による分けつの増加、塩安追肥による肥効の長持ち等期待されたが、どの区も同じような茎数推移をたどり、試験設計のねらいは判然としなかった。4月中旬～5月上旬の天候不順(長雨)、6月～7月の降雨不足も大きな要因と考えられる。

表1 播種

前作物	播種			畦幅
	月日	量	方法	
春小麦	9/25	175粒/㎡	手押し式播種機	30cm

表1 窒素施肥 (kg/10a)

時期	窒素量	摘要
基肥(9/24)	4.0	BB850M
起生期(4/11)	6.3	硫安
幼形期(5/5)	6.3	硫安
幼形期7日後(5/6、5/9)	6.3、4.2	硫安、塩安、尿素
止葉期(5/20)	4.2	硫安

表3 防除

月日	対象病害虫	使用薬剤
5/16	赤さび病	ミリオネアフロアブル(4,000倍)
6/9	赤かび病	プロラインフロアブル(2,000倍)
6/16	赤かび病、赤さび病	ミラビスフロアブル(1,500倍) アミスター20フロアブル(2,000倍)
6/20	赤さび病	ミリオネアフロアブル(4000倍) シルバキュアフロアブル(2,000倍)

表4 生育調査・病害及び諸障害発生調査

区 別	出芽 良否	上段:生育期節(月/日) 下段:茎数(本/m ²)				成熟期における			病害及び障害発生程度				
		起生期	幼形期	止葉期	成熟期	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	赤さ び病	うどん こ病	赤か び病	穂発 芽	倒伏
慣 行	良	4/10 1,410	5/2 1,450	5/23 820	7/13 787	91.5	9.4	787	中	無	無	無	無
試①起生期追肥	良	4/10 1,390	5/2 1,480	5/23 907	7/13 753	89.0	9.5	753	中	無	無	無	無
試②塩安追肥	良	4/10 1,223	5/2 1,213	5/23 727	7/13 663	89.6	9.4	663	中	無	無	無	無
試③尿素追肥	良	4/10 1,433	5/2 1,370	5/23 993	7/13 867	88.6	9.5	867	中	無	無	無	無

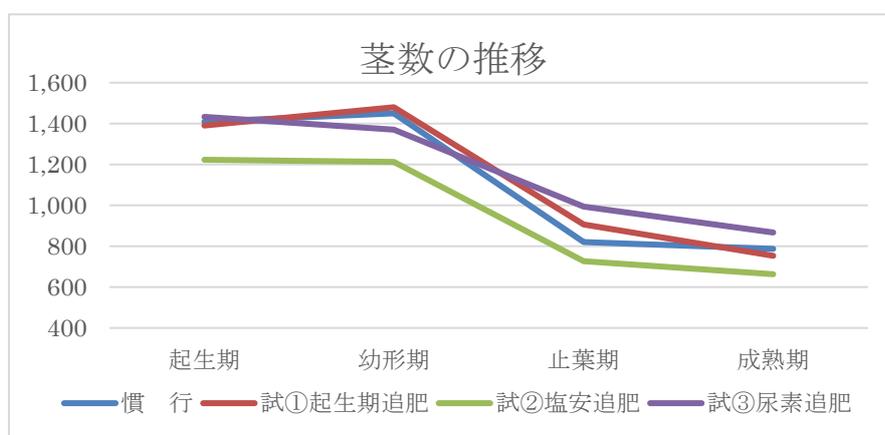


表 5 収量・品質調査

区 別	収穫 月日	10 a 当り収量				品質	
		粗麦重 (kg)	精麦重 (kg)	比 率 (%)	歩 留 (%)	千粒重 (g)	蛋白質 含有率
慣 行	7/16	902	807	100	92.1	38.2	11.3
試①起生期追肥	7/16	899	805	100	92.3	39.4	10.9
試②塩安追肥	7/16	927	798	99	88.7	36.8	11.3
試③尿素追肥	7/16	909	774	96	88.1	37.5	11.1

※精麦重：2.2 mm網上、水分 12.5%換算値。

秋まき小麦追肥法検討試験（Ⅱ）

1 試験目的：秋まき小麦の緩効性肥料による省力追肥法について検討する。（初年目）

2 試験方法

- (1) 品 種：きたほなみ
- (2) 面積及び区数：1区面積 7.2 m²、2反復
- (3) 追肥方法：慣行－幼形期7日後硫安 N6+止葉期硫安 N4
試験－幼形期7日後 Dd73 N10 …… 一発追肥
- (4) 耕種概要：表1播種、表2窒素施肥、表3防除

3 結果の要約

- (1) 10a当りの収量は、慣行に比べてDd一発追肥区が90%と低くなった。（表5）
- (2) 生育の過程は、慣行に比べてDd一発追肥区の茎数が少ない状態で推移し、成熟期穂数も89%と少なくなった。（表4）
- (3) 品質は、慣行に比べてDd一発追肥区の歩留まりが低く、千粒重も小さかった。（表5）
- (4) 考 察

本年は、追肥後収穫までの降雨が非常に少なく、Dd(硝酸化抑制)肥料の性質上、窒素の溶出がかなり抑えられたものと推察される。当地域は、6～7月の干ばつ気候が多いためDd肥料の一発追肥はリスクを伴うことが予想される。Dd肥料の一発追肥は2回追肥を1回にする省力化であり、肥料代を鑑みてもあまり有効でないと思われる。

表1 播種

前作物	播 種			畦幅
	月日	量	方法	
春小麦	9/25	175粒/m ²	手押し式播種機	30cm

表2 窒素施肥 (kg/10a)

時 期	窒素量	摘 要
基 肥(9/24)	4.0	BB850M
幼形期7日後(5/6)	6.3 10.5	硫安 Dd73
止葉期(5/20)	4.2	硫安

表3 防除

月 日	対象病虫害	使用薬剤
5/16	赤さび病	ミリオネアフロアブル(4,000倍)
6/9	赤かび病	プロラインフロアブル(2,000倍)
6/16	赤かび病	ミラビスフロアブル(1,500倍) アミスター20フロアブル(2,000倍)
6/20	赤さび病	ミリオネアフロアブル(4000倍) シルバキュアフロアブル(2,000倍)

表4 生育調査・病害及び諸障害発生調査

区 別	出芽 良否	上段:生育期節(月/日) 下段:茎数(本/m ²)				成熟期における			病害及び障害発生程度				
		起生期	幼形期	止葉期	成熟期	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	赤さ び病	うどん こ病	赤か び病	穂発 芽	倒伏
慣 行	良	4/10 1,410	5/2 1,450	5/23 820	7/13 787	91.5	9.4	787	中	無	無	無	無
試験 Dd 一発	良	4/10 1,333	5/2 1,170	5/23 733	7/13 703	90.1	9.4	703	中	無	無	無	無

表5 収量・品質調査

区 別	収穫 月日	10 a 当り収量				品質	
		粗麦重 (kg)	精麦重 (kg)	比率 (%)	歩留 (%)	千粒重 (g)	蛋白質 含有率
慣 行	7/16	902	807	100	92.1	38.2	11.3
試験 Dd 一発	7/16	880	726	90	84.8	36.6	11.4

※精麦重：2.2 mm網上、水分 12.5%換算値。

秋まき小麦赤さび病の越冬前処理効果確認試験

1 試験目的：秋まき小麦赤さび病の越冬前処理の効果を確認する。(初年目)

2 試験方法

(1) 品 種：キタノカオリ

(2) 面積及び区数：1区面積7.2㎡、2反復

(3) 処 理 方 法：雪腐病防除(ランマン及びフロンスайд)同日処理(11/10)

①ミリオネアフロアブル4,000倍、②シルバキュアフロアブル1,000倍

③無処理

次年(各区共通)

幼形期2週間後(5/19)ミリオネアフロアブル4,000倍

開花始(6/9)プロラインフロアブル2,000倍

(4) 耕 種 概 要：表1 播種、表2 窒素施肥、表3 防除

3 結果の要約

(1) 越冬前処理時は、赤さび病の病斑がごく稀に確認された。(表4)

(2) 越冬後5月8日の調査では、シルバキュア区でごく稀に、無処理区で若干赤さび病斑が確認され、ミリオネア区では皆無であった。(表4)

(3) 止葉期、出穂期と進むにつれ特に無処理区の病斑は増加したが、処理区においてはわずかな病斑面積の増加にとどまった(ミリオネア区<シルバキュア区)。(表4)

(4) 考 察

キタノカオリの過去の経過では、止葉期あたりから一気に赤さび病が拡大する傾向があったが、今年は越冬前無処理区を含めて融雪後の発生がかなり抑制された年となった。その中でも、無処理区でやや発生が多かったことを鑑みると、越冬前処理の効果はあったように思われる。次年度は、キタノカオリに加えきたほなみにおいても再度確認を実施する。

表1 播種

前作物	播 種			畦幅
	月日	量	方法	
春小麦	9/25	280粒/㎡	手押し式播種機	30cm

表2 窒素施肥 (kg/10a)

時期	窒素量	摘要
基 肥(9/24)	4.0	BB850M
起生期(4/11)	6.3	硫安
幼形期(5/1)	6.3	硫安
止葉期(5/27)	4.2	硫安

表3 防除 (赤さび病防除以外)

月 日	対象病害虫	使用薬剤
5/19	うどんこ病	カッシーニフロアブル(3,000倍)
6/9	赤かび病	プロラインフロアブル(2,000倍)
6/16	赤かび病	ミラビスフロアブル(1,500倍)

表4 赤さび病病斑面積率調査

(%)

処理区 (調査月日)		処理時 (11/11)	幼形期後 (5/8)	止葉抽出期 (5/16)	出穂期 (6/3)
①ミリオネア区	株元葉	無	0.0	—	—
	止葉	—	—	0.0	0.0
	下葉	—	—	0.0	0.0
	3葉目	—	—	0.0	0.7
	4葉目	—	—	0.4	4.6
②シルバキュア区	株元葉	極微	0.6	—	—
	止葉	—	—	0.0	0.0
	下葉	—	—	0.0	0.0
	3葉目	—	—	0.2	1.6
	4葉目	—	—	2.6	5.9
③無処理区	株元葉	極微	3.6	—	—
	止葉	—	—	0.0	0.0
	下葉	—	—	0.1	0.2
	3葉目	—	—	1.4	5.4
	4葉目	—	—	10.7	17.0

[雪腐病防除時]



[5月8日]



〈ミリオネア区〉



〈シルバキュア区〉



〈無処理区〉

[5月16日]



〈ミリオネア区〉



〈シルバキュア区〉



〈無処理区〉

[6月3日]
(3葉目)



〈ミリオネア区〉



〈シルバキュア区〉



〈無処理区〉

春まき小麦品種系統比較試験

1 試験目的：春まき小麦の品種系統の地域適応性を検討する。

2 試験方法

- (1) 品 種：HW11号～多収、耐穂発芽、倒伏性中、対照：春よ恋、比較：はるきらり
- (2) 面積及び区数：1区面積7.2㎡、2反復
- (3) 耕種概要：表1播種、表2窒素施肥、表3防除

3 結果の要約

- (1) HW11号は、10a当りの収量が350kgで春よ恋の対比109%(昨年135%)と大きく優り、比較品種のはるきらりと比べても103%(昨年124%)となった。(表5)
- (2) 生育の過程は、春の天候が悪く播種、出芽が遅れ、圃場が湿潤のため初期生育もバラついた。成熟期調査においても、稈長が短く穂数も不足気味であった。倒伏はなかった(春よ恋は微倒伏)。(表4)
- (3) 病害虫では、うどん粉病が各品種とも微発生だった。昨年出穂以降発生が多くなった赤さび病は、今年はほぼ発生しなかった。(表4)
- (4) 品質は、千粒重が39.6gと春よ恋よりも大きく、はるきらりとほぼ同等であった。タンパク含量は13.2%と春よ恋より低くはるきらりと同等であった。容積重は、829g/lと他の2品種より高かった。(表5)
- (5) 考 察
春の天候が悪かったことから収量、生育が低い水準にとどまったが、HW11号は、春よ恋等と比較すると昨年同様収量性が良いこと、倒伏にやや強いこと、千粒重が大きいことなどから春よ恋の後継として期待が持てる。

表1 播種

前作物	播 種			畦幅
	月日	量	方法	
大豆	5/2	340粒/㎡	手押し式播種機	30cm

表2 窒素施肥 (kg/10a)

時 期	窒素量	摘要
基 肥(4/24)	15.3	Dd778

表3 防除

月 日	対象病害虫	使用薬剤
6/9	うどんこ病	カッシーニフロアブル(3,000倍)
6/13	赤さび病	ミリオネアフロアブル(4,000倍)
6/24	赤かび病	プロラインフロアブル(2,000倍)
7/1	赤かび病	ミラビスフロアブル(1,500倍)

表4 生育調査・病害及び諸障害発生調査

品種名	出芽 良否	生育期節（月/日）			成熟期における			病害及び諸障害発生程度				
		止葉期	出穂期	成熟期	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	赤さび 病	うどん こ病	赤かび 病	穂発芽	倒伏
HW11号	並	6/10	6/17	7/22	72	8.4	483	無	微	無	無	無
春よ恋	並	6/13	6/19	7/26	75	8.4	527	微	微	無	無	微
はるきらり	並	6/11	6/18	7/23	76	8.0	490	無	微	無	無	無

表5 収量・品質調査

品種名	収穫 月日	10a 当り収量				品質		
		粗麦重 (kg)	精麦重 (kg)	比率 (%)	歩留 (%)	千粒重 (g)	容積重 (g/l)	蛋白質 含有率
HW11号	7/28	371	350	109	94.4	39.6	829	13.2
春よ恋	7/28	346	320	100	92.5	38.2	804	13.8
はるきらり	7/28	356	341	106	95.7	40.0	812	13.2

※精麦重：2.2mm 網上、水分 12.5%換算値。

春まき小麦バイオスティミュラント効果確認試験

- 1 試験目的：春まき小麦におけるバイオスティミュラントの効果を確認する。(2年目)
- 2 試験方法
 - (1) 品 種：春よ恋
 - (2) 資 材：レコルト～腐植酸液状複合肥料(硝酸性窒素 1%、水溶性加里 8%)
 - (3) 試 験 方 法：①種子処理～5mg 塗抹処理/種子 1 kg
②茎葉散布～3 葉期及び 5 葉期 1,000 倍液
 - (4) 面積及び区数：1 区面積 7.2 m²、2 反復
 - (5) 耕 種 概 要：表 1 播種、表 2 防除(施肥：基肥 Dd778 90kg/10a(窒素 15.3kg)、追肥なし)
- 3 結果の要約
 - (1) 10a 当収量は、慣行区に対しレコルト種子処理区 89%、レコルト葉面散布区 94%と慣行区を上回ることとはできなかった。(表 4)
 - (2) 生育過程は、長期湿潤状態での播種となったことで、出芽のバラつき、土壌の硬化による生育の停滞とバラつきなどがあり、最終草丈は平年より 10cm 以上も小さかった。成熟期穂数も 454～493 本/m²と不足気味となり、区による大きな差は見られなかった。(表 3)
 - (3) 品質は、歩留まり、千粒重、蛋白含有率等に大きな違いがなかった。(表 4)
 - (4) 考 察
昨年増収効果が認められた腐植酸レコルトであるが、本年の試験においては種子処理、葉面散布ともにやや減収という結果となった。播種床の湿潤、播種時期の遅れなど条件がこの上なく厳しい年であったが、悪条件下で効果が期待できないとなると非常に使いづらい資材ということになると思われる。

表 1 播種

前作物	播種月日	量	方法	畦幅
大豆	5/2	340 粒/m ²	手押し式播種機	30 cm

表 2 防除

月 日	対象病害虫	使用薬剤
6/9	うどんこ病	カッシーニフロアブル(3,000 倍)
6/13	赤さび病	ミリオネアフロアブル(4,000 倍)
6/24	赤かび病	プロラインフロアブル(2,000 倍)
7/1	赤かび病	ミラビスフロアブル(1,500 倍)

表3 生育調査・病害及び諸障害発生調査

区 別	出芽 良否	生育期節(月/日)				成熟期(7/10)の			うどん粉病 (6/9)	倒伏% (7/10)
		幼形期	止葉期	出穂期	開花期	穂数	稈長	穂長		
種子処理	並	6/5	6/13	6/19	6/24	493	81.4	8.8	微	無
葉面散布	並	6/5	6/13	6/19	6/24	454	81.0	9.1	微	無
慣 行	並	6/5	6/13	6/19	6/24	477	82.5	9.2	微	無

表4 収量・品質調査

区 別	収穫 月日	10 a 当り収量				品質	
		粗麦重 (kg)	精麦重 (kg)	比率 (%)	歩留 (%)	千粒重 (g)	蛋白質 含有率
種子処理	7/28	321	289	89	89.9	39.5	15.0
葉面散布	7/28	343	308	94	89.8	38.9	14.9
慣 行	7/28	361	326	100	90.2	40.0	14.9

※精麦重：2.2 mm網上、水分12.5%換算値。

春まきなたね品種比較試験

1 試験目的：春まきなたね品種の地域適応性を検討する。(初年目)

2 試験方法

- (1) 品 種：ラクリッツ(Lakritz)～欧州産、NonGM
 対照：ラゴンダ(Lagonda)～欧州産、早生、高油分、高収量、NonGM
- (2) 面積及び区数：1区面積 11.2 m²(0.7m×4列×4m)、2反復
- (3) 耕 種 概 要：表1 播種、表2 施肥、表3 防除

3 結果の要約

- (1) 播種時期の長期悪天候により悪条件での播種となり、出芽率とその後の生育が大きく阻害されたことにより本年の試験は参考とする。収量調査については、5株抽出による推定値とした。
- (2) 収量は、ラゴンダに比べラクリッツが132%と高かった。(表6)
- (3) 成熟期調査では、ラクリッツの草丈がラゴンダに比べ10cm程度高かったが、一次分枝数に大きな違いはなかった。(表5)
- (4) 成分分析の結果は、ラゴンダの油分42.2%に対しラクリッツは44.5%と高かった。酸価値もラゴンダが2.55と基準(1.5未満)を上回ったのに対し、1.12と基準を上回った。(表6)
- (5) 病害虫は、菌核病の発生はなかったが、莢伸長期のヨトウ食害が目立った。(表5)
- (6) 考 察
 本試験の結果はラクリッツが大いに有望であることを示唆したが、出芽、生育があまりにも悪かったため、次年度も同様の試験を継続して確認したい。

1 播種

前作物	播 種			畦幅
	月日	量	方法	
大豆	5/2	200g/10a	手押し式播種機	70 cm

表2 窒素施肥 (kg/10a)

時 期	窒素	りん酸	加里	摘 要
基肥(4/24)	10.0	13.1	11.2	BBS182 他
追肥(6/13)	6.0	-	-	硫安

表3 防除

月 日	対象病害虫	使用薬剤
6/6、6/24、7/1、7/9	鱗翅目幼虫他	チューンアップ顆粒水和剤(2,000倍)、モスピラン顆粒水和剤(2,000倍)他

表4 出芽及び生育期節の状況

区分	出芽	良否	出芽率	抽苔期	開花期	成熟期	収穫日
ラクリツ	5/18	不良	18	6/11	6/18	8/7	8/15
ラゴンダ	5/18	不良	40	6/11	6/18	8/5	8/15

※出芽率は達観

表5 成熟期調査

区別	草丈 (cm)	第1分枝上長 (cm)	一次分枝数	病害・障害発生程度	
				菌核病	倒伏
ラクリツ	115.6	103.2	8.1	無	無
ラゴンダ	105.0	95.0	8.6	無	無

表6 収量調査

区別	10a 当り収量		千粒重(g)	成分等	
	子実重(kg)	対比(%)		油分(%)	酸価(AV) (1.5未満)
ラクリツ	208	132	2.9	44.5	1.12
ラゴンダ	158	100	3.3	42.2	2.55

※子実重は7%水分換算

※成分等は米澤製油㈱にて分析

※()内はダブルロー品種の一般的な基準

春まきなたね施肥法試験

1 試験目的：春まきなたねの施肥法を検討する。(初年目)

2 試験方法

(1) 品 種：ラゴнда ※欧州産、春まき、早生、高油分、高収量、NonGM

(2) 面積及び区数：1区面積 11.2 m²(0.7m×4列×4m)、2反復

(3) 施肥窒素区分：12 kg区①基肥 6 kg追肥 6 kg、②基肥 8 kg追肥 4 kg

16 kg区③基肥 8 kg追肥 8 kg、④基肥 10 kg追肥 6 kg、⑤基肥 12 kg追肥 4 kg

※追肥は抽苔期 ※窒素kg/10a

(4) 耕 種 概 要：表1 播種、表2 窒素施肥、表3 防除

4 結果の要約

(1) 播種時期の長期悪天候により悪条件での播種となり、出芽率とその後の生育が大きく阻害されたことにより本年の試験は参考とする。収量調査については、5株抽出による推定値とした。

(2) 収量は、基6追6区に対し同じ合計窒素12kg区では基8追4区の基肥重点型の収量が高くなり(114%)、基8追8区、基10追6区、基12追4区の合計16kg区はさらに高くなった(128~172%)。(表6)

(3) 成熟期調査では、草丈、第1分枝上長、一次分枝数において窒素施用量が多くなるほど、基肥重点になるほど数値が大きくなる傾向があった。(表5)

(4) 成分分析の結果は、トータルとして油分は42.2%と一定水準の数値となったものの、酸価は2.55と基準を大きく超える結果となった。(表6)

(5) 病害虫は、菌核病の発生はなかったが、莢伸長期のヨトウ食害が目立った。(表5)

(6) 考 察

本試験の結果において施肥法の方向性はある程度示されたが、出芽、生育があまりにも悪かったため、次年度も同様の試験を継続して確認したい。

表1 播種

前作物	播 種			畦幅
	月日	量	方法	
大豆	5/2	200g/10a	手押し式播種機	70 cm

表2 窒素施肥 (kg/10a)

時 期	窒素	りん酸	加里	摘要
基肥(4/24)	各区分	13.1	11.2	S014他
追肥(6/13)	各区分	-	-	硫安

表3 防除

月 日	対象病害虫	使用薬剤
6/6、6/24、7/1、7/9	鱗翅目幼虫他	チューンアップ顆粒水和剤(2,000倍)、モスピラン顆粒水和剤(2,000倍)他

表4 出芽及び生育期節の状況

区 分	出芽	良否	出芽率	抽苔期	開花期	成熟期	収穫日
①基6追6	5/18	不良	45	6/11	6/18	8/5	8/15
②基8追4	5/18	不良	40	6/11	6/18	8/5	8/15
③基8追8	5/18	不良	10	6/11	6/18	8/5	8/15
④基10追6	5/18	不良	40	6/11	6/18	8/5	8/15
⑤基12追4	5/18	不良	40	6/11	6/18	8/5	8/15

※出芽率は達観

表5 成熟期調査

区 別	草丈 (cm)	第1分枝上長 (cm)	一次分枝数	病害・障害発生程度	
				菌核病	倒伏
①基6追6	99.8	88.0	7.0	無	無
②基8追4	105.8	92.5	6.6	無	無
③基8追8	106.9	100.5	7.4	無	無
④基10追6	108.3	95.1	6.0	無	無
⑤基12追4	111.5	96.2	7.6	無	無

表6 収量調査

区 別	10a 当り収量		千粒重 (g)	成分等	
	子実重(kg)	対比(%)		油分(%)	酸価(AV) (1.5未満)
①基6追6	176	100	3.3	42.2	2.55
②基8追4	200	114	3.2		
③基8追8	302	172	3.6		
④基10追6	225	128	3.3		
⑤基12追4	235	134	3.5		

※子実重は7%水分換算

※成分等は検査機関で分析

※()内はダブルロー品種の一般的な基準

小豆品種系統比較試験

1 試験目的：小豆の品種系統の地域適応性を検討する。

2 試験方法

(1) 品 種：きたいろは～やや早生、中粒、対照：エリモ 167

(2) 面積及び区数：1区面積 10.56 m²、2 反復

(3) 耕 種 概 要：表 1 播種、表 2 窒素施肥、表 3 防除

3 結果の要約

(1) きたいろはは、エリモ 167 に比べて生育期節は成熟期で 1 日遅かった。主茎長は高かったが、主茎節数がやや少なく着莢数もやや少なかった。10a 当り収量は 93% と少なかったが、最下着莢位置がやや 2 倍の 15.4 cm と非常に高かった。百粒重も大きかった。(表 4、5)

(2) 考 察

きたいろはは、何といても最下着莢位置が非常に高く汎用コンバインでの収穫を可能にする。ただ、昨年に引き続いて倒伏があり、倒伏しない栽培方法の確立が必要である。

表 1 播種

前作物	月日	栽植密度			方法
		畦幅 (cm)	株間 (cm)	粒数/株	
なたね	5/30	66	20	3 粒 (2 本立)	手播き

表 2 窒素施肥 (kg/10a)

時 期	窒素量	摘要
基 肥 (5/27)	3.0	S644

表 3 防除

月 日	対象病虫害	使用薬剤
7/17	アブラムシ	モスピラン水和剤 (2,000 倍)
7/28	ツメクサガ	バイスロイド乳剤 (1,000 倍)
8/19	メイガ類	ゲットアウト WDG (3,000 倍)
8/29	アブラムシ	モスピラン水和剤 (2,000 倍)

表4 生育調査・病害及び諸障害発生調査

品種名	出芽 良否	生育期節(月/日)		成熟期における				病害等		
		開花期	成熟期	主茎長(cm)	主茎節数	着莢数 (/株)	最下着莢位 置(cm)	倒伏	落葉病	茎疫病
きたいろは	良	7/30	9/10	66.0	16.3	34.4	15.4	少	無	無
エリモ167	良	7/26	9/9	57.0	17.8	37.0	8.0	少	無	無

表5 収量・品質調査

品種名	10a 当り収量		品質		
	子実重 (kg)	(%)	百粒重 (g)	屑粒率 (%)	検査等級
きたいろは	362	93	13.4	14.7	3 中
エリモ167	388	100	11.5	12.2	3 中

※子実重：水分15%換算値

たまねぎ品種比較試験

1 試験目的：新規品種の地域適応性を検討する。

2 試験方法

(1) 品 種：極早生種 1区 SN-3、2区 SN-4、3区 SN-5(七宝)
早生種 4区 KH278、5区 オホーツク 222(七宝)

(2) 面積及び区数：1区 15.6 m²(1.2m×13m)、反復なし

(3) 耕 種 概 要：表1 播種・施肥、表2 生育調査、表3 病虫害防除、表4 収量調査

3 結果の要約

(1) 6月後半の干ばつを受け早生2品種は減収したが生育に大きな差は生じなく、極早生3品種は生育に大きな差はなかったが、肥大期、倒伏期に多少の差が生じた。(表4)

(2) 極早生種比較 SN-3は草丈・生葉数・葉鞘径・球径とも大きく最も多収で、SN-4は活着後の生育が遅く緩慢で、倒伏期は4日早く小玉傾向で低反収であった。(表2、4)

SN-4は減収しているが、肥大期・倒伏期は3日早く、極早生種としての魅力はあり、試験の継続が必要と思われる。(表2、4)

SN-5はSN-3と同等程度の生育を示し、球肥大期は1日遅く倒伏期は同程度であった。(表2)

(3) 早生種比較 KH278はオホーツク 222と比較し生育は同程度、球肥大期は1日早く倒伏期は1日遅くやや小玉傾向であった。(表2、4)

表1 播種・施肥

播種日	定植	植栽密度		施肥量		成分量			
		畝幅	株間	肥料銘柄	kg/10a	N	硝酸態N	P	K
5/16	5/2	30 cm	12 cm	BBS121	150	15.0	2.3	30.0	15.0
オホーツク 222 2/14		27,777 株/10a							

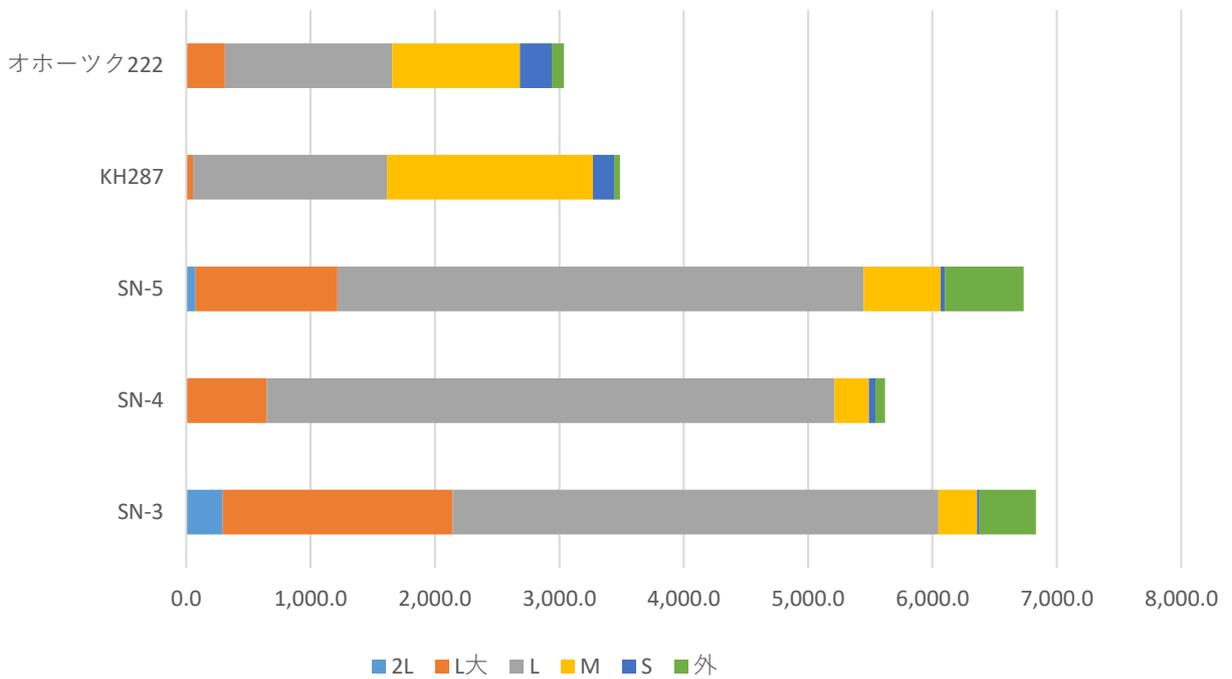
表2 生育調査

区	品種	5/21			6/23			7/18			球肥大期	倒伏期	収穫 早生7/31 中早生8/21		
		草丈 (cm)	生葉数 (枚)	葉鞘径 (mm)	草丈 (cm)	生葉数 (枚)	葉鞘径 (mm)	草丈 (cm)	生葉数 (枚)	葉鞘径 (mm)			球高 (mm)	球径 (mm)	球形指数 (%)
1	SN-3	14.9	2.7	4.5	72.7	7.1	16.3	68.2	5.4	77.2	6/20	7/7	75.8	60.5	79.9
2	SN-4	9.37	2.3	2.9	61.00	5.8	12.2	56.7	3.2	64.2	6/16	7/3	71.4	59.4	83.2
3	SN-5	12.4	2.6	2.9	68.7	7.00	15.6	63.9	5.0	65.6	6/21	7/7	72.1	64.8	89.9
4	KH287	12.1	5.5	5.9	74.2	7.4	16.9	72.5	6.4	63.9	6/23	7/13	66.5	59.8	89.9
5	オホーツク222	18.1	2.5	4.00	72.00	7.5	18.7	71.7	6.8	67.1	6/24	7/12	69.3	62.6	90.9

表3 病害虫防除

月 日	殺虫剤		殺菌剤	
6/2	トクチオン乳剤	1,000倍	グリーンペンコゼア水和剤	500倍
6/18	リーフガード顆粒水和剤	1,500倍	ファンタジスタ顆粒水和剤	2,500倍
6/25	トクチオン乳剤	1,000倍	ミリオネアフロアブル	4,000倍
7/1	ベネビア OD	2,000倍	スターナ水和剤	1,000倍
7/8	トクチオン乳剤	1,000倍	ファンタジスタ顆粒水和剤	2,000倍
7/17	モスビラン顆粒水和剤	2,000倍	バリダシン液剤	500倍
7/22	ベネビア OD	2,000倍	スターナ水和剤	1,000倍
7/29	モスビラン顆粒水和剤	2,000倍	スターナ水和剤	1,000倍
8/6	リーフガード顆粒水和剤	1,500倍	フジドーフロアブル	500倍

表4 収量調査



区	品種	規格内(kg/10a)							規格外 破 裂	総重量
		2 L	L大	L	L 上重量	M	M 上重量	S		
1	SN-3	292.6	1,849.4	3,906.2	6,048.2	308.9	6,357.1	22.5	453.1	6,832.7
2	SN-4	0.0	646.7	4,565.0	5,211.7	277.8	5,489.5	52.2	77.8	5,619.5
3	SN-5	76.0	1,140.5	4,232.1	5,448.6	617.5	6,066.1	33.6	634.3	6,734.0
4	KH287	0.0	54.3	1,560.5	1,614.8	1,654.3	3,269.1	172.8	44.4	3,486.3
5	オホーツク 222	0.0	311.1	1,345.7	1,656.8	1,027.7	2,681.5	256.8	98.8	3,037.1

極早生種 SN-3



極早生種 SN-4



極早生種 SN-5



早生種 左 KH287

右 オホーツク 222



たまねぎ肥料効果検討試験

1 試験目的：長期の連作により肥料成分が蓄積しているたまねぎ圃場で、慣行施肥に対してリン酸施用量を削減できる資材の効果を検討する。(3年目)

2 試験方法

(1) 品 種：オホーツク 222

(2) 面積及び区数：面積 216 m² (1区 36 m² (4.8m×7.5m) 2反復

慣行区：BBS121N 150 kg/10a (N15 P30 K15)

試験区：えこラク S580 100 kg/10a (N15 P8 K10)

(3) 耕種概要：表1 播種・施肥、表2 生育調査、表3 収量調査、表4 病虫害防除

3 結果の要約

(1) 天候不順で移植が遅れ高温干ばつで経過し生育期間が短く、生育は同等であった。(表2)

(2) 窒素成分 15 kg/10a とし比較、試験区は土壌分析に基づきリン酸 8%とし収量・品質の確認を行った結果L規格以上 5%程度、総収量 10%程度増収し、裂皮球も少なかった。(表3 写真)

※過去2か年の平均～慣行区(BBS121)6,017 kg/10a、試験区(えこラク S580)6,077 kg/10a

(3) 土壌分析に基づくリン酸減肥は、収量・品質も維持され肥料費も40%程度は削減できると思われる。(表1)

表1 播種・施肥

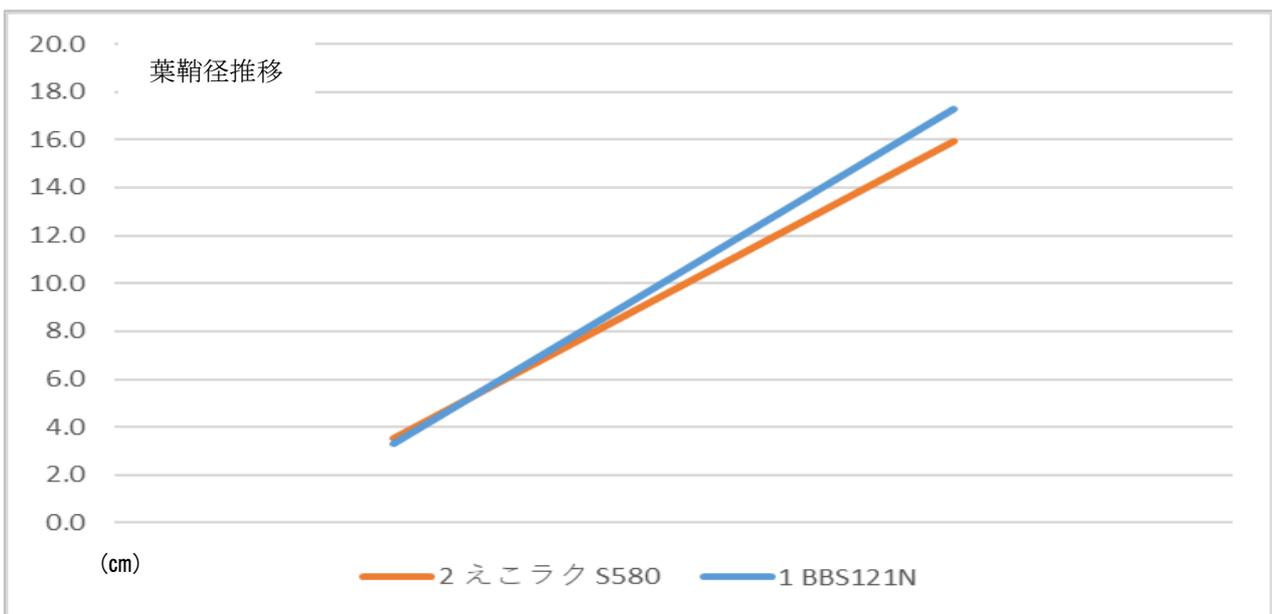
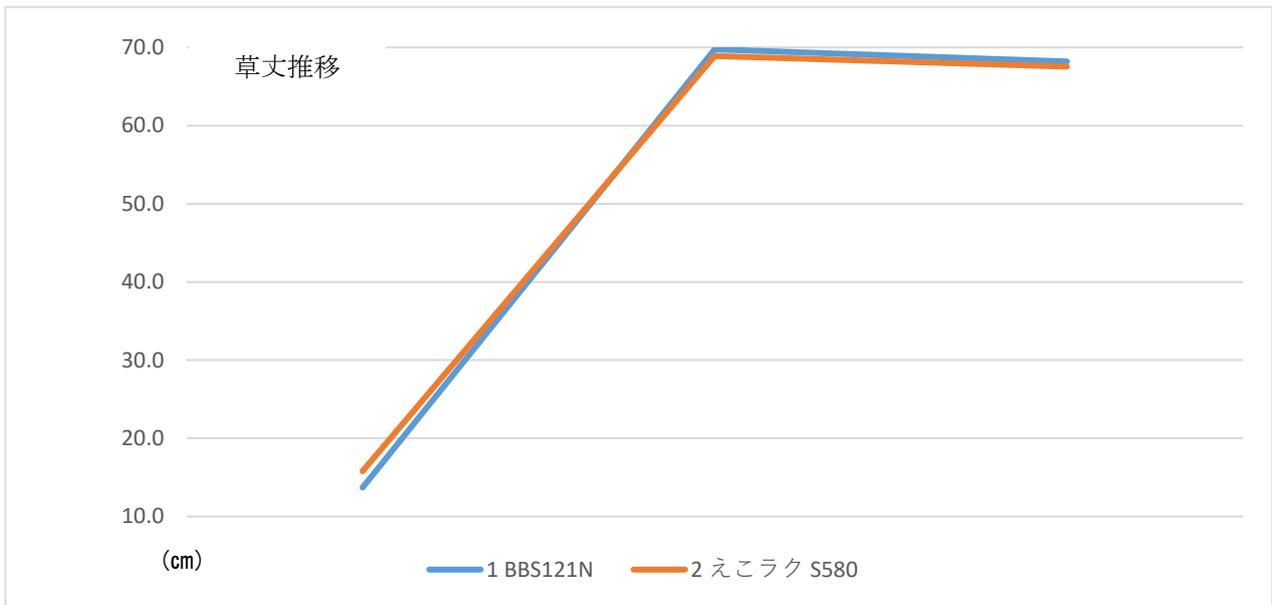
土壌診断値 PH:6.0 EC:0.0 CEC:22.1 リン酸:90 mg/100g

石灰:44.9 mg/100g 苦土 42.1 mg/100g 加里 40.2 mg/100g

播種日	定植日	栽植密度		施肥量/10a			成分量			
		畦幅(cm)	株間(cm)	区	肥料区分	kg	N	硝酸態N	P	K
2/14	5/2	30	12	1	BBS121N	150	15.0	2.3	30.0	15.0
		27,777 株/10a		2	えこラク S580	100	15.0	2.3	8.0	10.0

※ 硝酸態 N は N の内数

表2 生育調査



区	品種	5/21			6/23			7/18			球肥大期	倒伏期	8/18根切		8/21収穫
		草丈 (cm)	生葉数 (枚)	葉鞘径 (mm)	草丈 (cm)	生葉数 (枚)	葉鞘径 (mm)	草丈 (cm)	生葉数 (枚)	葉鞘径 (mm)			球高 (mm)	球径 (mm)	球形指数 (%)
1	BBS121N	13.7	2.3	3.3	69.8	7.6	17.3	68.2	6.2	56.5	6/24	7/12	65.65	60.35	91.9
2	えこラクS580	15.8	2.4	3.5	68.9	7.8	15.9	67.6	6.6	59	6/24	7/12	67.80	64.40	95.00

表3 収量調査

区	品 種	規格内 kg/10a							規格外 破裂	総重量
		2L	L大	L	L上重量	M	M上重量	S		
1	BBS121N	0.0	350.0	1,513.9	1,869.3	1,152.8	3,016.7	298.9	111.1	3,426.7
2	えこラク S580	0.0	372.2	1,975.0	2,347.2	1,166.7	3,513.9	288.9	63.9	3,866.7

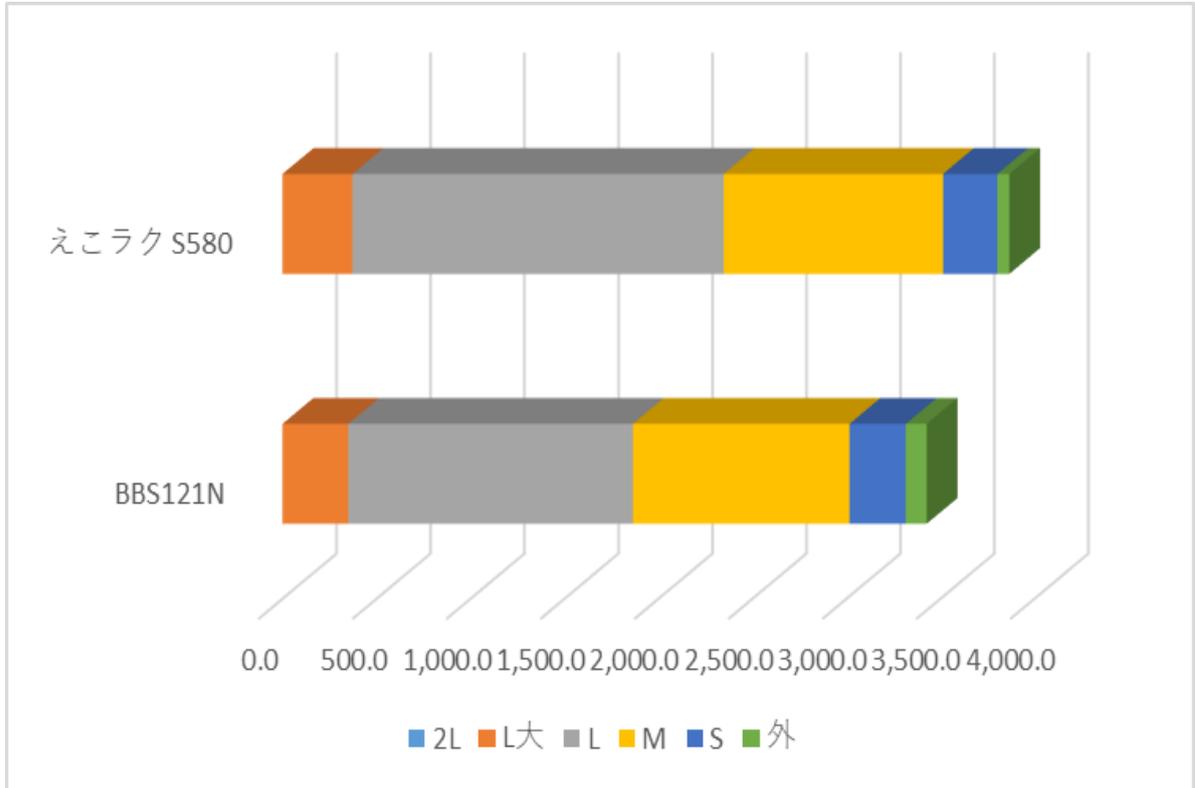


表4 病虫害防除

月 日	殺虫剤		殺菌剤	
6/2	トクチオン乳剤	1,000倍	グリーンペンコゼア水和剤	500倍
6/18	リーフガード顆粒水和剤	1,500倍	ファンタジスタ顆粒水和剤	2,500倍
6/25	トクチオン乳剤	1,000倍	ミリオネアフロアブル	4,000倍
7/1	ベネビア OD	2,000倍	スターナ水和剤	1,000倍
7/8	トクチオン乳剤	1,000倍	ファンタジスタ顆粒水和剤	2,000倍
7/17	モスビラン顆粒水和剤	2,000倍	バリダシン液剤	500倍
7/22	ベネビア OD	2,000倍	スターナ水和剤	1,000倍
7/29	モスビラン顆粒水和剤	2,000倍	スターナ水和剤	1,000倍
8/6	リーフガード顆粒水和剤	1,500倍	フジドーフロアブル	500倍

撮影日 8月21日

反復1 左 えこラク S580

右 BBS121N



反復2 左 えこラク S580

右 BBS121N



路地かぼちゃ品種比較試験

1 試験目的：路地作型におけるかぼちゃの品種特性を把握し、地域適性を検討する。

2 試験方法

- (1) 品 種：黒皮 ①味平(対照品種) ②味平 DX ③プリメラエース
④MKS-K1671 ⑤MKS-K1722 ⑥20JS52
白皮 ⑨AJ-175 ⑩銀世界(対照品種)
- (2) 作 型：路地(グリーンマルチ、灌水チューブなし)
- (3) 面積及び区数：1区 22.4 m²(95 cmマルチ、子づる 2本仕立て：7株)、反復なし
- (4) 耕 種 概 要：表 1 播種・施肥、表 2 病害虫防除、表 3 生育・収量調査
表 4 出荷規格調査、表 5 食味調査

3 結果の要約

6 品種 共通

- (1) 1番果は10～13節、茎長は146～175 cmに着果したが、着果日はほぼ同日であった。(表 3)
- (2) 2番果は14～17節、茎長は208～252 cmに着果し1番果着果後2～3日であった。(表 3)
- (3) いずれの品種も草姿は健全であり、草姿は対照品種の味平と大差なく生育した。(表 3)
- (4) 出荷状態から3か月間の食味試験を実施し、8月の食味試験では対照品種の味平が高評で、9月はMKS-K1722が高評価を示し、10月は味平 DX、プリメラエースの2品種が腐敗し味平、20JS52が高評価であった。(表 5)

黒皮かぼちゃ比較

- (1) 収量重量は20JS52 > MK-SK1722 > 味平 > 味平 DX > プリメラエース > MKS-K1671であった。(表 3)
- (2) 収穫玉数は20JS52 > MKS-K1722 > 味平 = プリメラエース > 味平 DX > MKS-K1671であった。(表 3)
- (3) 6品種ともに大玉傾向で、特にMKS-K1671は全量4玉サイズ以上であった。(表 4)

白皮かぼちゃ比較

- (1) AJ-175は収穫重量・玉数とも多いが小玉傾向で、7玉以下が50%を超え5玉以上の大きい物は少なかった。(表 4)
- (2) 両品種とも1番果は14節中心、2番果は18節中心であり、茎長は1番果で同等程度あったが2番果ではAJ-175が44.6cm長かった。(表 3)
- (3) AJ-175の草姿は、生育初期から強い傾向であった。(表 3)
- (4) 出荷状態から3か月間の食味試験の結果は、AJ-175の評価は低く糖度も低い傾向であった。(表 5)
- (5) 慣行区の銀世界は食味試験の結果では、日数経過で評価が高まり10月調査値Brixは15を超え高評価で、収量・品質とも銀世界が優れていた。(表 5)

表1 播種・施肥

土壌分析値 PH:6.1 EC: 0.02 CEC:27.9 リン酸:60mg/100g

石灰:543mg/100g 苦土:47.8mg/100g 加里:54.4mg/100g

区	品種名	月日				栽植密度		仕立方法	つる仕立	施肥銘柄	肥用量/10a															
		播種日	鉢上	定植	芯止	株間(cm)	畝幅(cm)				kg	N	P	X												
1	味平	5/7	5/15	5/19	6/13	70	400	子2	6/23	S879E (基肥)	80	6.4	13.6	7.2												
2	味平DX																									
3	プリメラエース																									
4	MKS-K1671																									
5	MSK-K1722																									
6	20JS52									S444 (分肥)	12	1.68	0.48	1.68												
9	AJ-175																									
10	銀世界																									
計															8.07	14.08	8.88									

※7、8区は放任栽培試験

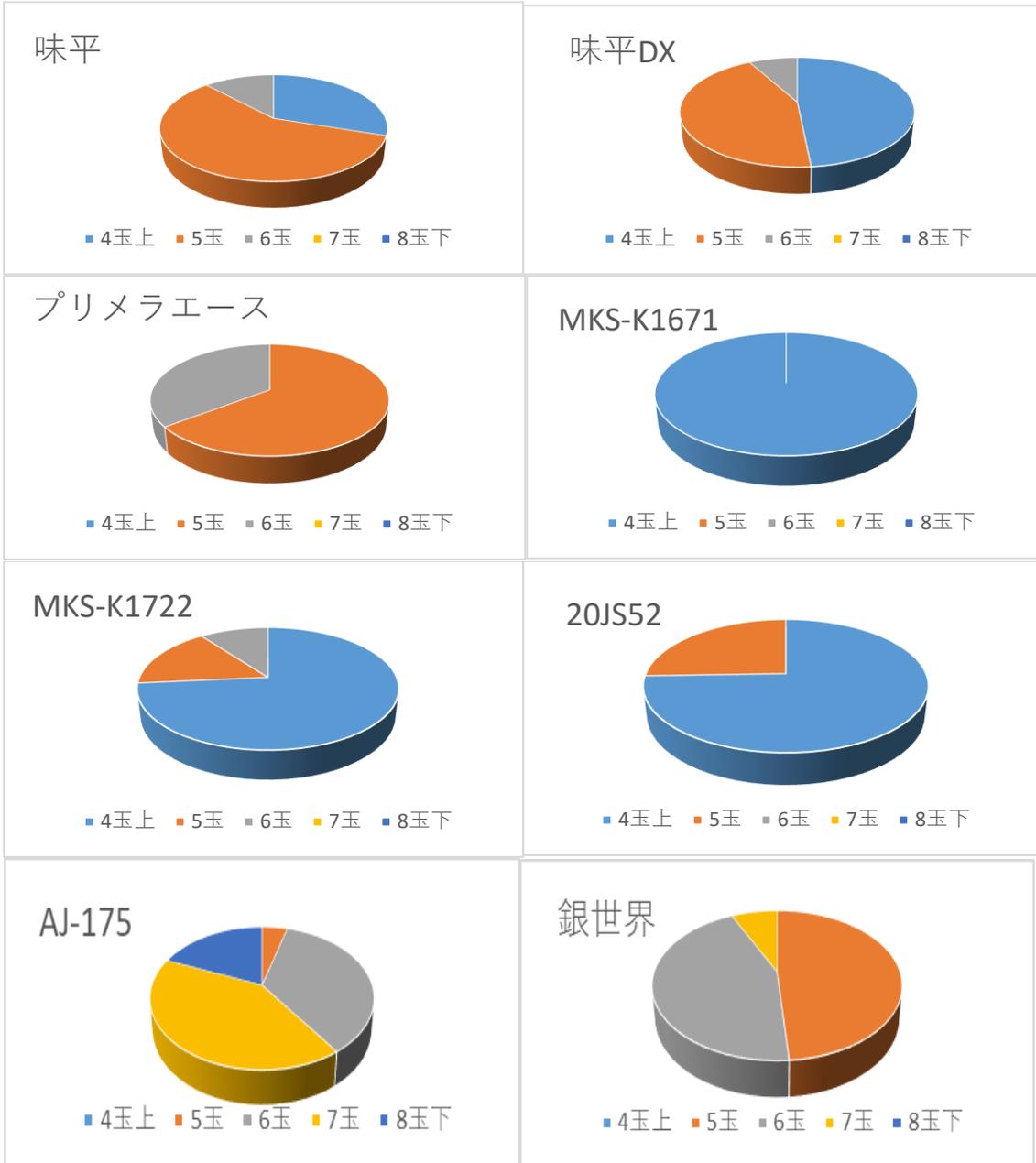
表2 病虫害防除

月日	殺虫剤		殺菌剤	
6/13	アディオオン乳化剤	2,000倍	グリーンペンコゼア水和剤	600倍
6/23	ゲットアウトWDG	3,000倍	ダニコール1000	1,000倍
7/1	トレボン乳剤	1,000倍	イデクリン水和剤	500倍
7/8			トリフミン水和剤	3,000倍
7/17			サルバトーレME	2,000倍

表3 生育・収量調査

区	品種名	着果			収穫 始め	成熟 日数	6/27		着果節位		茎長		10a収量	
		始め	期	終わり			節	茎長	第1果	第2果	第1果	第2果	球数	重量(kg)
1	味平	7/6	7/8	7/10	8/13 収穫1回	36	10.43	164.60	13.00	17.60	205.00	272.10	1,020.40	2,114.80
2	味平DX			7/10			8.54	144.29	11.90	14.70	205.00	247.10	696.40	2,107.10
3	プリメラエース			7/11			8.68	128.57	10.80	14.20	176.20	228.10	1,020.40	1,897.90
4	MKS-K1671			7/11			7.07	117.50	10.40	14.00	188.20	245.00	663.30	1,704.10
5	MSK-K1722			7/10			6.93	121.08	10.90	13.80	205.70	264.20	1,071.40	2,492.30
6	20JS52			7/10			10.14	155.00	12.00	16.10	193.80	258.80	1,190.50	2,797.60
9	AJ-175			7/10			11.46	191.07	14.20	17.60	230.30	265.40	1,530.60	2,288.20
10	銀世界			7/10			11.32	184.29	13.90	18.80	226.40	310.00	1,173.50	2,094.40

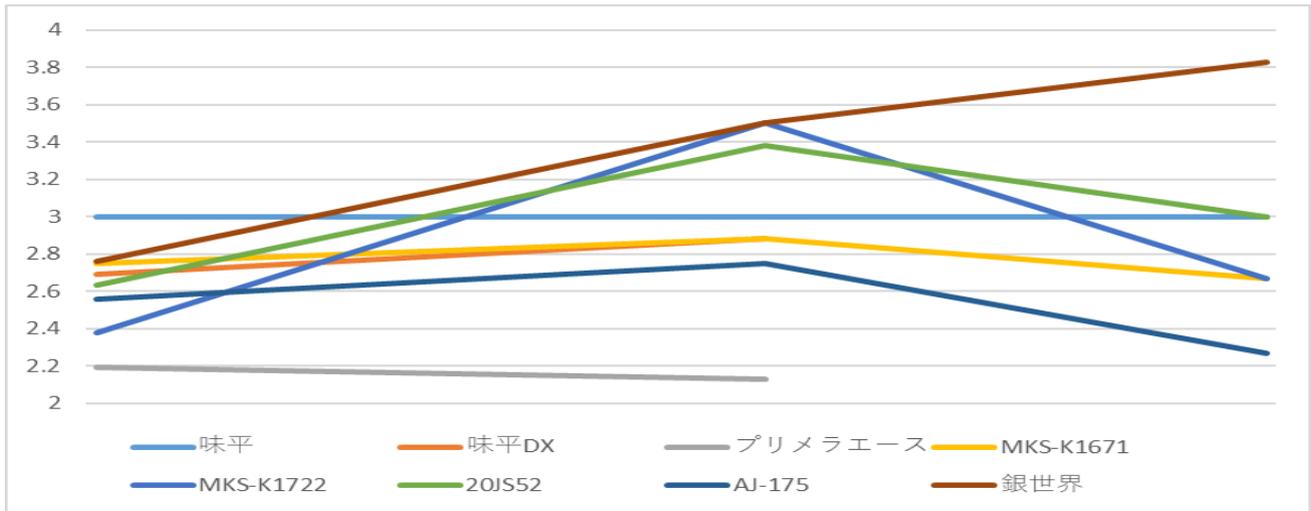
表 4 出荷規格別調査



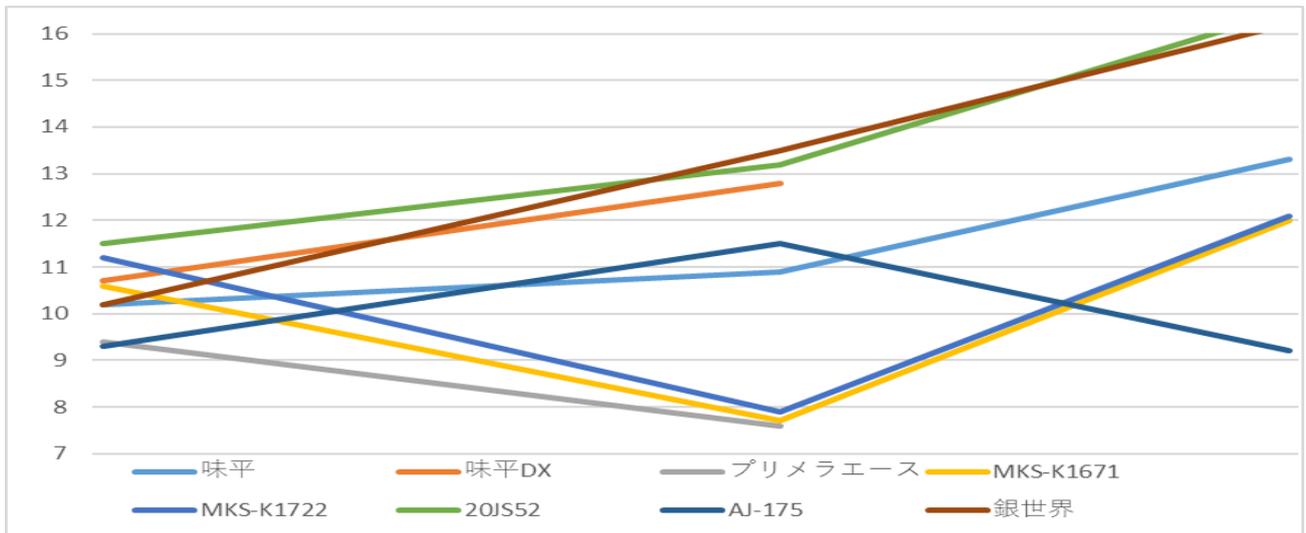
区	品種名	玉サイズ別比率(%)				
		4玉上	5玉	6玉	7玉	8玉
1	味平	30.2	57.9	11.9	0.0	0.0
2	味平DX	48.4	43.6	8.0	0.0	0.0
3	プリメラエース	0.0	64.5	35.5	0.0	0.0
4	MKS-K1671	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
5	MSK-K1722	73.5	16.4	10.1	0.0	0.0
6	20JS52	74.5	25.5	0.0	0.0	0.0
9	AJ-175	0.0	4.4	35.9	41.0	18.8
10	銀世界	0.0	48.7	44.2	7.1	0.0

表5 食味調査

Brix 測定値推移(同一サンプルではない)



総合評価の推移



区	品種名	Brix			総合評価			肉厚調査 (サンプル平均)		
		8/25	9/26	10/20	8/25	9/26	10/20	赤道部	花痕部	扁平率(%)
1	味平	10.2	10.9	13.3	3.00	3.00	3.00	34	24.7	72.6
2	味平DX	10.7	12.8		2.69	2.88		34.1	22.5	66
3	プリメラエース	9.4	7.6		2.19	2.13		31.7	20.4	64.3
4	MKS-K1671	10.6	7.7	12.0	2.75	2.88	2.67	36.3	27.4	75.5
5	MSK-K1722	11.2	7.9	12.1	2.38	3.50	2.67	33.1	25.4	76.8
6	20JS52	11.5	13.2	16.5	2.63	3.38	3.00	41.9	22.2	52.9
9	AJ-175	9.3	11.5	9.2	2.56	2.75	2.27	34	25.3	74.3
10	銀世界	10.2	13.5	16.2	2.76	3.50	3.83	34.2	18.6	54.3

総合評価の判定方法 「味平」を3として比較し表示

調査月、人：8月 18名、9月 8名、10月 17名

参加者：種苗会社等、JA いわみざわ職員、市役所北村支所職員、試験圃場職員



白皮かぼちゃ AJ-175(白皮かぼちゃ 銀世界は堆肥施用試験参照)



路地かぼちゃ栽培改善試験(堆肥施用)

1 試験目的：肥料高騰対策として、堆肥の施用効果を検討する。(継続2年目)

2 試験方法

- (1) 品 種：銀世界
- (2) 面積及び区数：1区 39.2 m²(95 cmマルチ、子づる2本仕立て:14株) 反復なし
- (2) 作 型：路地(グリーンマルチ、灌水チューブなし)
- (4) 施 用 方 法：1区慣行施肥(基肥 有機化成肥料 S879E+分施 化成肥料 S444)
2区ペレット堆肥(300kg/10a)+単肥(硫安・硫加)全量基肥
- (5) 耕 種 概 要：表1 播種・施肥、表2 病虫害防除、表3 生育・収量調査
表4 出荷規格調査、表5 食味調査
ペレット堆肥の内容
種類：牛ふん堆肥(完熟たい肥を乾燥しフルイにかけたもの)
肥料成分含量 N:1.2%、P:4.4%、K:1.7%
これに肥料換算係(N:0.2、P2.64、K:1.0)を乗じて有効成分量を算出し、
有効成分量をN:0.24%、P:2.64%、K:1.7%とした。
※肥料換算係数は、「北海道成否ガイド2020」を参考にした。

4 結果の要約

- (1) 開花、着果及び収穫いずれも同時期であり差は見られず、生育は良好であった。(表3・4)
- (2) 食味調査は、多少 Brix・総合評価で差が生じたがサンプルの差と思われる。(表5)
- (3) 昨年の結果は、堆肥施用11区は茎葉の生育、一果重はやや劣り着果数がやや多い結果であったが、本年は品質、収量に差は見られなかった結果となった。(表3・4)
- (4) 2か年の試験で堆肥施用によりリン酸減肥は、肥料費30%程度の削減は有効と考えられ経費削減に貢献できると思われる。(表1)

表1 耕播種・施肥

土壤診断値 PH:6.1 EC:0.02 CEC:27.9 リン酸:60 mg/100g 石灰：543mg/100g

苦土：47.8mg/100g 加里：54.4mg/100g (前作スイートコーン)

月 日		栽植密度		仕立方法	つる仕立	区	施肥銘柄	施容量			
播種	定植	株間	畝間					kg	N	P	K
5/7	5/29	70	400	子づる2本 (摘花6/13)	6/23 1区分肥実施 S444	1	S879E	80	6.40	13.60	7.20
							S444	12	1.68	0.48	1.68
							計		8.08	14.08	8.88
						2	堆肥	300	0.72	7.92	5.10
							硫安	35	7.35	0.00	0.00
							硫加	6	0.00	0.00	3.00
計		8.07	7.92	8.10							

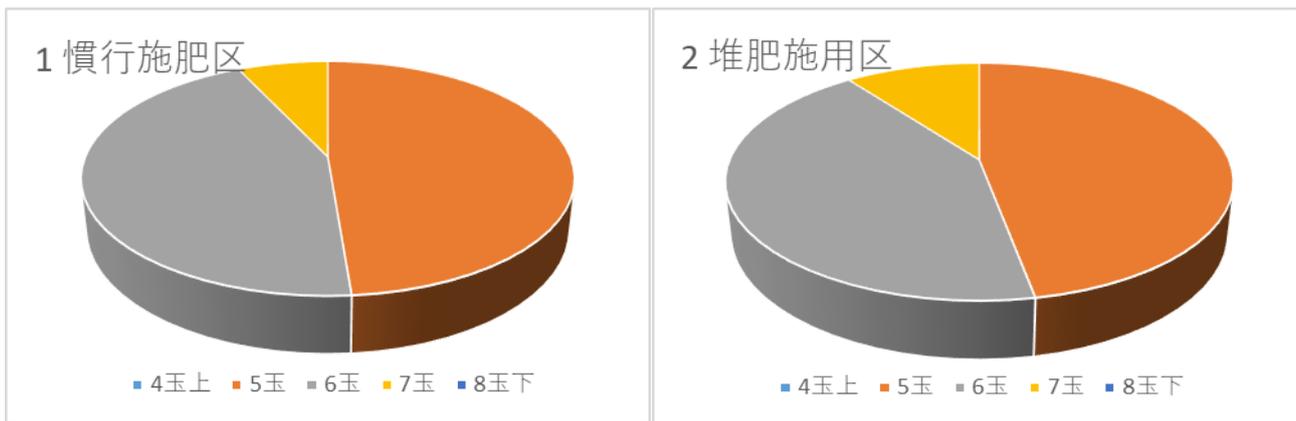
表2 病害虫防除(品種比較試験同様)

月日	殺虫剤		殺菌剤	
	薬剤名	濃度	薬剤名	濃度
6/13	アディオオン乳化剤	2,000倍	グリーンペンコゼア水和剤	600倍
6/23	ゲットアウトWDG	3,000倍	ダニコール1000	1,000倍
7/1	トレボン乳剤	1,000倍	イデクリーン水和剤	500倍
7/8			トリフミン水和剤	3,000倍
7/17			サルバトーレME	2,000倍

表3 生育・収量調査

区	施用区	着果			収穫始め	成熟日数	着果節位		茎長		着果数	収穫量(kg/10a)
		始め	期	終わり			第1果	第2果	第1果	第2果		
1	慣行施肥区	7/16	7/8	7/10	8/13 収穫1回	36	13.9	18.8	196.4	290.0	1,173.50	2,094.40
2	堆肥施用区						13.9	18.4	186.8	282.9	1,224.50	2,168.40

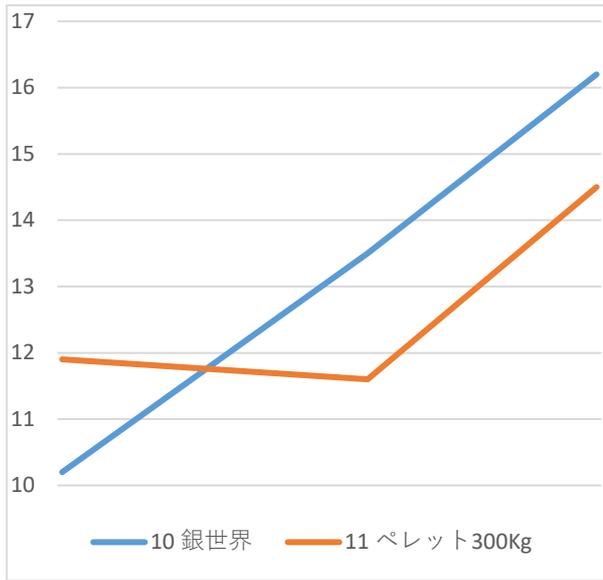
表4 出荷規格調査



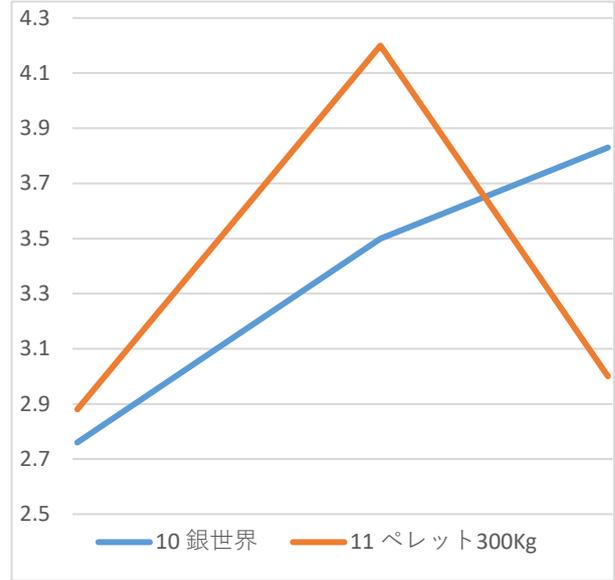
区	施用区	玉サイズ別比率(%)				
		4玉上	5玉	6玉	7玉	8玉下
1	慣行施肥区	0.0	48.7	44.2	7.1	0.0
2	堆肥施用区	0.0	47.1	42.7	10.2	0.0

表5 食味調査

Brix 測定値推移(同一サンプルではないため数値に差は生じる)



総合評価の推移



区	施用区	Brix			総合評価			肉厚調査 (サンプル平均)		
		8/25	9/26	10/20	8/25	9/26	10/20	赤道部	花痕部	扁平率(%)
1	慣行施肥区	10.2	13.5	16.2	2.76	3.50	3.80	34.2	18.6	54.3
2	堆肥施用区	11.9	11.6	14.5	2.88	4.20	3.00	35.7	20.4	57.2

評価方法の判定方法 品種比較試験の食味調査と同時に開催し「味平」を3として比較し表示
 調査月、人：8月 18名、9月 8名、10月 17名
 参加者：種苗会社等、JAいわみざわ職員、市役所北村支所職員、試験圃場職員

撮影日 8/20

左 10 区 慣行施肥区

右 11 区 堆肥施用区



路地かぼちゃ栽培改善試験(放任栽培)

1 試験目的：肥培管理の軽減を目指した放任栽培品種の適応性を検討する。(継続2年目)

2 試験方法

- (1) 品 種：①栗のめぐみ(3年目)、②ジェジェ J(2年目)
- (2) 作 型：路地(グリーンマルチ 95 cm、灌水チューブなし)
株元着果を除去：芯止後、株元着果のマルチ上を摘果後放任栽培
完全放任：芯止後、完全に放任栽培
- (3) 面積及び区数：1区 栗のめぐみ 株元摘果、10 m²(マルチの上に着果させない 5m)、反復なし
2区 ジェジェ J 株元摘果、10 m²(マルチの上に着果させない 5m)、反復なし
3区 栗のめぐみ 完全放任、10 m²(95cm マルチ 5m)、反復なし
4区 ジェジェ J 完全放任、10 m²(95cm マルチ 5m)、反復なし
- (4) 耕 種 概 要：表1 播種・施肥、表2 病虫害防除、表3 生育・収量調査
表4 出荷規格調査、表5 食味調査

3 結果の要約

- (1) 栗のめぐみでは完全放任区が10a当たりの総玉数は119.1玉で大玉傾向、総収穫量では237.5 kg増収であった。(表3)
- (2) 6月27日の生育調査では、ジェジェ Jは生育旺盛で栗のめぐみの2倍程度の茎長を示し、株元摘果区も完全放任区も同様であった。(表3)
- (3) ジェジェ Jは株元摘果区が大玉傾向であるが、収穫量は完全放任区が上回った。(表3・4)
- (4) 栗のめぐみ」の食味調査は、Brix13.4(8/25)、12.6(9/26)であり、最も高い数値で食味総合評価でも好評であった。(表5)
- (5) ジェジェ Jの食味試験は、収穫から保存した3か月間ともBrixに大きな差は生じなく、総合評価では全品種の中で最も低い数値となった。(表5)
- (6) 品種比較としては、栗のめぐみが優れていると判断できた。(表5)
- (7) 放任栽培方法として品質維持や増収を考え摘果作業を行ったが、摘果の行わない完全放任が優れていると判断できた。(昨年も同様の評価あり)

表1 播種・施肥

土壌分析値 PH:6.1 EC:0.02 CEC:27.9 リン酸:60 mg/100g

石灰:543 mg/100g 苦土:47.8 mg/100g 加里:54.4 mg/100g

区	品種名	栽培方法	月日			栽植密度		施肥 銘柄	肥用量/10a			
			播種日	鉢上	定植	株間 (cm)	畝幅 (cm)		kg	N	P	X
1	栗のめぐみ	株元摘果	5/7	5/15	5/19	40	200	S879E (基肥)	80.00	6.40	13.60	7.20
2	ジェジェJ											
3	栗のめぐみ	完全放任						S444 (分肥)	12.00	1.68	0.48	1.68
4	ジェジェJ											
計						1,250株/10a			8.08	14.08	8.88	

6/23 追肥作業

表2 病虫害防除(品種比較試験同様)

月日	殺虫剤		殺菌剤	
6/13	アディオン乳化剤	2,000倍	グリーンペンコゼア水和剤	600倍
6/23	ゲットアウトWDG	3,000倍	ダニコール1000	1,000倍
7/1	トレボン乳剤	1,000倍	イデクリーン水和剤	500倍
7/8			トリフミン水和剤	3,000倍
7/17			サルバトーレME	2,000倍

表3 生育・収量調査

区	品種名	着果			収穫始め	成熟日数	6月27日		収穫数 (玉/10a)	収穫量 (kg/10a)
		始め	期	終わり			節数	茎長		
1	栗のめぐみ	7/6	7/9	7/12	8/13 収穫1回	35	6.300	79.00	892.80	1,372.00
2	ジェジェJ						9.200	149.80	773.80	1,782.70
3	栗のめぐみ						6.300	78.60	1,011.90	1,609.50
4	ジェジェJ						9.200	152.10	1,071.40	2,252.90

表4 出荷規格調査

区	施用区	玉サイズ別比率(%)				
		4玉上	5玉	6玉	7玉	8玉下
1	栗のめぐみ	0.0	17.4	28.6	37.7	16.3
2	ジェジェJ	75.1	20.0	0.0	4.8	0.0
3	栗のめぐみ	18.5	7.4	36.6	10.7	26.8
4	ジェジェJ	48.6	31.7	13.1	0.00	6.6

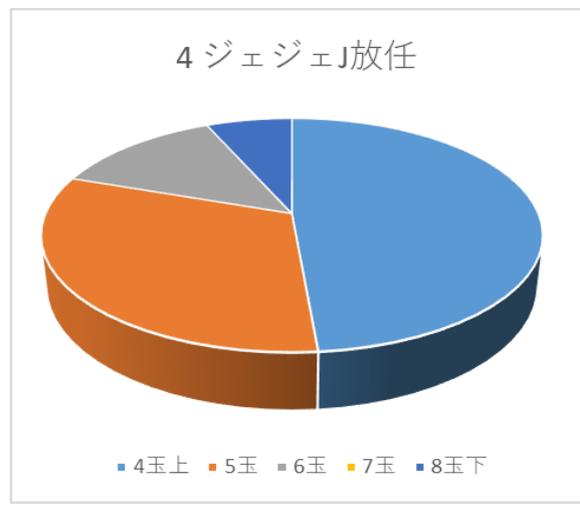
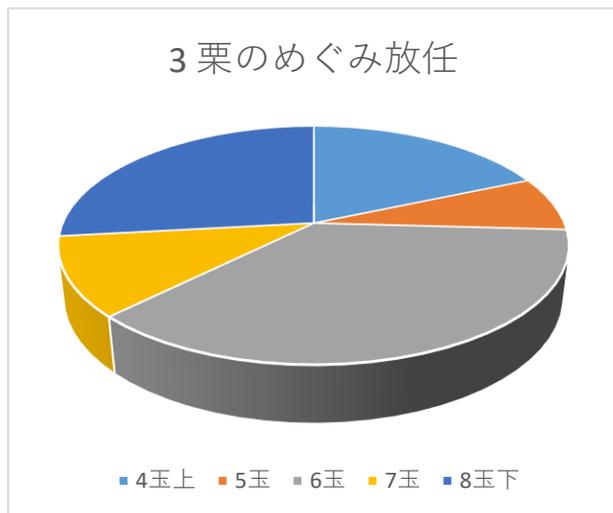
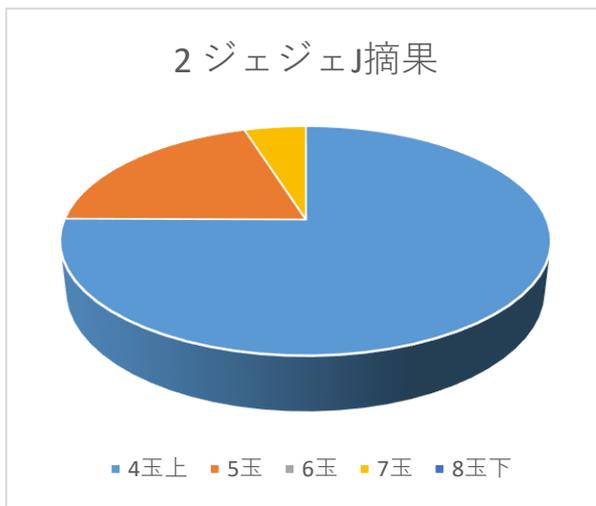
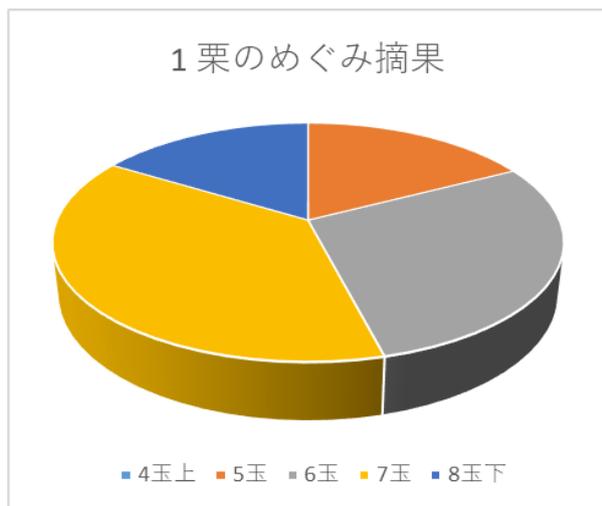
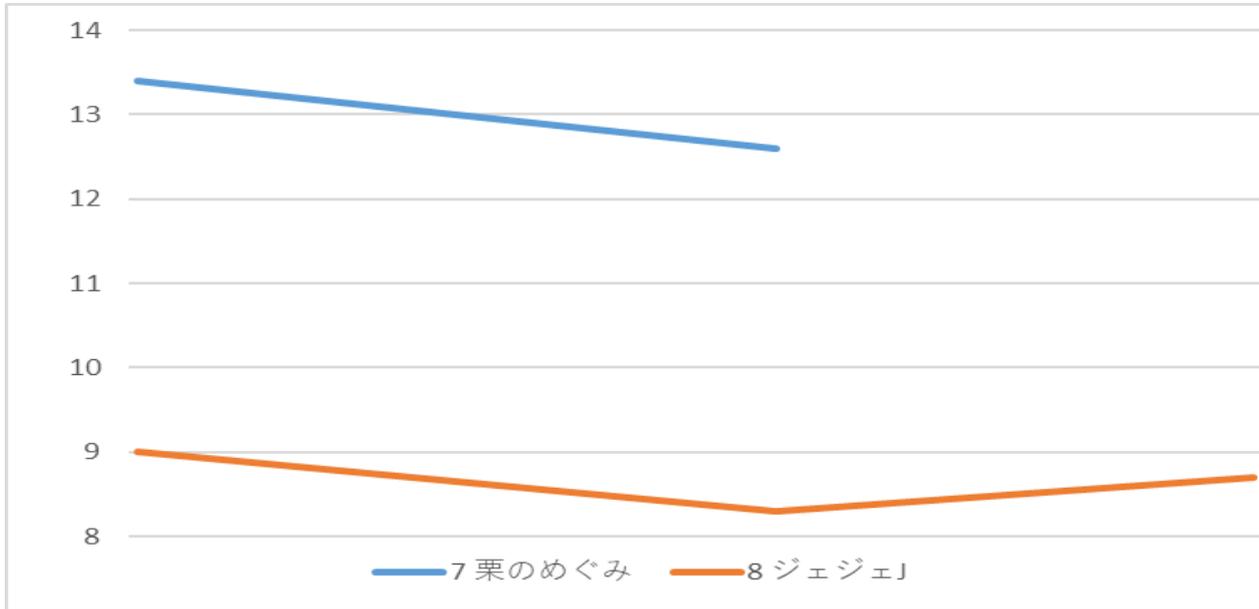


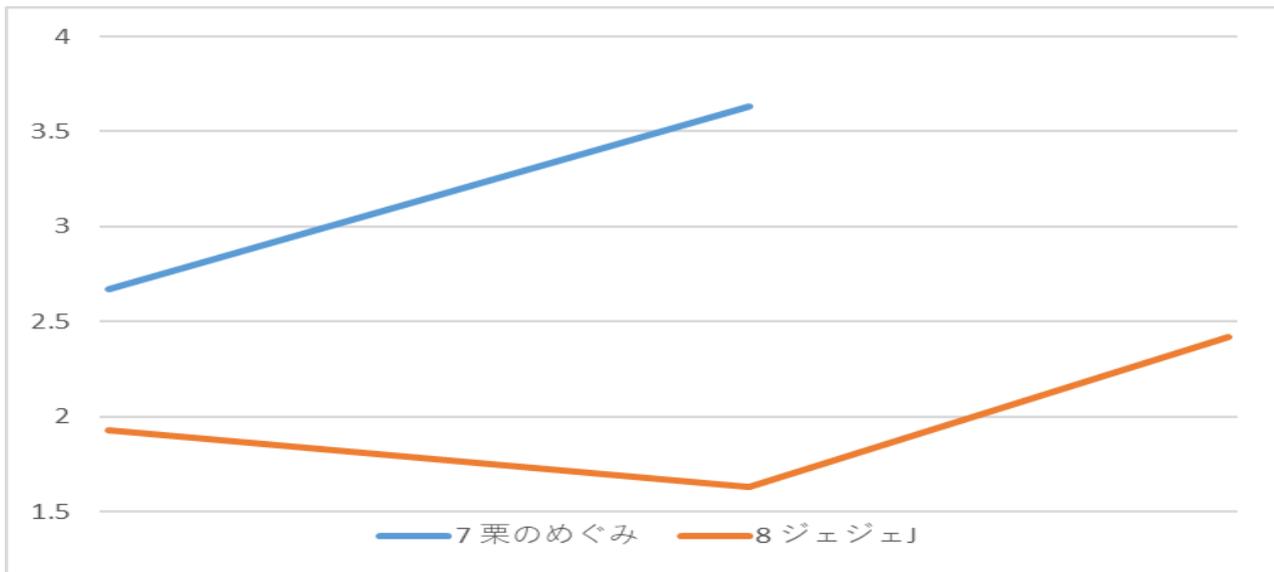
表5 食味調査

摘果区と放任区の区分けを行わず品種の特性として調査を行う

Brix 測定値推移(同一サンプルではない)



総合評価の推移



区	品種名	Brix			総合評価			肉厚調査 (サンプル平均)		
		8/25	9/26	10/20	8/25	9/26	10/20	赤道部	花痕部	扁平率(%)
7	栗のめぐみ	13.4	12.6		2.67	6.63		31.2	19.4	62.1
8	ジェジェJ	9.0	8.3	8.7	1.93	1.63	2.42	31.8	19.5	61.5

総合評価の判定方法 「味平」を3として比較し表示

調査月、人：8月 18名、9月 8名、10月 17名

参加者：種苗会社等、JAいわみざわ職員、市役所北村支所職員、試験圃場職員

撮影日 8月20日

栗のめぐみ 左 完全放任区(72)

右 株元摘果区(71)



撮影日 8月20日

ジェジェJ 左 完全放任区(82)

右 株元摘果区(81)



スイートコーン品種比較試験

1 試験目的：早生品種の路地作型における品種特性を把握し地域適応性を検討する。

2 試験方法

- (1) 品 種：慣行品種～恵味 86(対照品種)
試験品種～ミルキーシュガー80(耐低温性品種)
- (2) 作 型：路地直播(マルチ栽培、灌水チューブなし、8月どり)
- (3) 面積及び区数：1区 97.2 m²(9230 銀ネズマルチ)、反復なし
- (4) 耕 種 概 要：表1 播種・施肥、表2 病虫害防除、表3 生育・収量・規格別調査

3 結果の要約

- (1) 1穴2粒直播きとし播種後10日目で1粒以上の発芽を調査し結果、慣行品種の恵味86は91.1%、試験品種もミルキーシュガー80は94.6%であり3%程度発芽率は高かった。(表3)
- (2) 6/16生育調査は、試験品種のミルキーシュガー80は慣行品種の恵味86より生育はやや劣った。(表3)
- (3) 品種特性を明確に行うため、試験区の播種前に除外区を設置し5/8に播種を行っていたが、7月中旬頃から害虫が多発傾向であったため、試験区の2品種は受粉後の7/22害虫対策と倒伏防止のため7/22雄穂をカットし除去を行った。(表3、写真)
- (4) 出穂、開花に大差は無かったが、試験品種のミルキーシュガー80は錦糸抽出期、収穫適期及び収穫とも慣行品種の恵味86より2日程度早かった。(表3)
- (5) 収穫物の規格別調査は、慣行品種の恵味86対比で1本重量86.6%、雌穂長87.2%で劣り規格別では、試験品種のミルキーシュガー80に3Lサイズは無く2Lサイズは多かったが、全体的に小さい傾向であり10a収穫重量も下回った。(表3)
- (6) Brixは試験品種のミルキーシュガー80が慣行品種の恵味86より0.2高い数値となった。(表3)
- (7) 試験品種のミルキーシュガー80は、施肥量や作型等見直し変更すれば早生の作型として有効な場面も想定される。

表1 播種・施肥

土壌分析値 PH:5.9 EC:0.01 CEC:21.2 リン酸:33 mg/100g

石灰:384mg/100g 苦土:44.6 mg/100g 加里:26.9 mg/100g

播種日	栽植密度(cm)			雄穂除去日	施肥量(kg/10a)					
	畝幅	株間	条間		施用日	肥料名	施肥量	N	P	K
5月16日	90	30	45	7/22	5/13	基肥 S380	76.90	10.00	13.90	7.70
					6/13	分肥 S444	28.60	4.00	1.10	4.00
合 計	3,700本/10a							14.00	15.00	11.70

表2 病害虫防除

6/13	オルトラン水和剤	1,000倍
7/1	トレボン乳剤	1,000倍
7/8	モスピラン顆粒水和剤	2,000倍
7/22	ヨパールフロアブル	5,000倍

表3 生育・収量・規格別調査

品 種		恵味86	ミルクィーシュガー80	備 考	
出芽調査	播種日	5/16	5/16	5/6(出芽数の半数を超えた日)	
	出芽期	5/25	5/25		
	出芽数	163/179	193/204		
	発芽率(%)	91.1	94.6	播種後10日目	
生育調査	6/16	草丈(cm)	40.50	39.10	6/11 追肥、播種後26日目
		葉枚(枚)	8.14	8.00	6/18 生育調査、播種後31日目 (20株調査平均)
		分枝数(本)	1.50	1.20	
	雄穂抽出期	7/7始め 7/8	7/5始め 7/7	7/8 開花前防除	
	錦糸抽出期	7/16	7/14	2日早い	
	雄穂開花期	7/13	7/12	1日早い	
	収穫日	8/1	7/30	2日早い	
	収穫期	稈長(cm)	7/22 雄穂タッピングで計測不能		
		着穂高(cm)	48.6	44.2	同等程度
		分枝数(本)	2.6	2.8	
収量調査	雌穂重(g/本)	464.40	402.00	調査日は収穫日	
	雌穂長(cm)	23.00	20.05		
	先端不燃(cm)	0.00	0.00		
	糖度(Brix)	17.40	17.60	0.2高い	
	総収穫量(kg/10)	1,424.10	1,330.10	慣行区対比93.4%	
	仮立茎数(栽培密度×発芽率)	3,369.00	3,500.00		
	3L	規格比(%)	38.88	0.00	480g~
		重量(g)	3,360.00	-	
	2L	規格比(%)	44.44	60.00	400g~
		重量(g)	3,200.00	4,800.00	
L	規格比(%)	16.66	40.00	350g~	
	重量(g)	1,050.00	2,800.00		

撮影日 6/13 中央除外区(トンネル栽培、播種日 5/8)

両翼は栽植密度を合わせるためそれぞれの品種を播種し除外区とする

左 試験区 ミルキーシュガー80

右 慣行区 恵味86



撮影 7/10 試験区 開花極始め 中央除外区(トンネル栽培は 7/25 収穫、害虫対策のため雄穂をカットし除去)

左 試験区 ミルキーシュガー80

右 慣行区 恵味86





白菜品種比較試験(9月どり)

- 1 試験目的：地域に適応した白菜品種を検討する。
- 2 試験方法
 - (1) 品 種：ちよぶき70(70日タイプ、慣行品種)、TC1112(65日タイプ、試験品種)
 - (2) 面積及び区数：1区ちよぶき70 18.72 m²、2区TC1112 18.72 m²
畝間65cm×株間60cm、反復なし
 - (3) 作 型：路地移植(平床栽培)
 - (4) 耕 種 概 要：表1 播種・施肥、表2 発芽率・活着状況、表3 規格別収量、表4 病虫害防除
- 3 結果の要約
 - (1) 発芽率TC1112は93.4%、ちよぶき70は81.3%で試験品種のTC1112が高い数値だが、定植前は干ばつ傾向で推移し、定植後は高温多湿により定植時の植え痛みなども要因となり、生育の不揃いとなった。(表2・3)
 - (2) 8/10以降は、病害が多発し軟腐病剤の連用となった。(表4)
 - (3) 生育は2品種とも良好であんこ症状もなく、収穫調査では試験品種のTC1112がやや優れていて、規格内率・品質等もやや高評価を示した。(表2)
 - (4) 定植前は干ばつ傾向であったので平床栽培とした結果、生育や収穫量に影響を与え、4玉の正品率がなく未収穫や病害が多発したことは、高畝栽培が必須と考えられる。(表3)

表1 播種・施肥(前作:スイートコーン)

土壌分析値 PH:5.8 EC:0.03 CEC:22.4 リン酸:37mg/100g
石灰:412 mg/100g 苦土:38.3 mg/100g 加里:29.3 mg/100g

播種日	定植日	収穫	栽植密度(cm)		施肥量		要素量(kg/10a)				
			畝幅	株間	肥料銘柄	kg/10a	N	P	K	ホウ素	
6/24	7/16	9/11 ~ 9/17	65	60	基肥						
					NS222	100	12.0	12.0	12.0	0.5	
					S808	80	6.4	8.0	6.4		
					分肥						
					S444	45	6.3	1.8	6.3		
合 計			2,564株/10a				24.7	21.8	24.7	0.5	

表2 発芽率・活着状況

品 種	発芽率(%)	活着率(%)
ちよぶき70	81.3	87.8
TC1112	93.4	68

表3 規格別収量

区	品 種	4玉	5玉	規格内計	規格外	未収穫	合計
		3.3kg~	2.0kg~		2.0kg未満	病害	
1	ちよぶき70	0.0	25.0	25.0	10.0	65.0	100.0
2	TC1112	0.0	40.0	40.0	20.0	40.0	100.0

一定区内における発生割合：各区20株調査し各項目に該当する割合(%)を算出した

5玉規格平均 品 種	重量平均 (kg)	たて径 (cm)	よこ径 (cm)	芯高 (cm)	品質 しまり
ちよぶき70	2.5	29.5	15.1	3.0	やや弱
TC1112	2.8	30.2	15.3	3.0	良

表4 病虫害防除

月 日	殺虫剤		殺菌剤		備 考
7/4	トレボン乳剤	1,000倍			防虫網設置
7/11			ネビリュウ	20kg/10a	土壌混和
7/16	オルトラン粒剤	2g/株			横穴処理
7/22			グリーンペンコゼブ水和剤	600倍	ナブ乳剤散布
8/6	ランネート45DF	1,000倍	ダニコール1000	1,000倍	
8/12	チューンアップ顆粒水和剤	2,000倍	スターナ水和剤	1,000倍	
8/14	トレボン乳剤	1,000倍	スターナ水和剤	1,000倍	
8/18	ベネビアOD	2,000倍	アタッキン水和剤	1,000倍	
8/22	ランネート45DF	1,000倍	カーニバル水和剤	1,000倍	
8/29	モスピラン顆粒水和剤	1,000倍	ダニコール1000	1,000倍	
9/3	ベネビアOD	2,000倍	スターナ水和剤	1,000倍	

左 試験品種 TC1112

右 慣行品種 ちよぶき70



白菜品種比較試験(10月どり)

1 試験目的：地域に適応した白菜品種を検討する。

2 試験方法

(1) 品 種：晴黄75(75日タイプ、対照品種)、C0-540(70~75日タイプ、試験品種)

(2) 面積及び区数：1区晴黄色 18.72 m²、2区C0-540 18.72 m²

畝間65 cm×株間60 cm、反復なし

(3) 作 型：路地移植(平床栽培)

(4) 耕 種 概 要：表1 播種・施肥、表2 発芽率・活着状況

表3 規格別収量、表4 病虫害防除

3 結果の要約

(1) 発芽率は慣行品種の晴黄75は93%、試験品種のC0-540は89.3%で慣行品種の晴黄75が高く活着率も高い値を示した。(表2)

(2) 生育は2品種とも良好であったが、生育中の停滞水により40%は未収穫となった。(表3)

(3) 8月中旬から降雨が続き、生育は不揃いとなり病害も多発し防除を徹底した。(表4)

(4) 生育は2品種とも良好であんこ症状もなく、収穫調査も品種格差は見られなかった。

(5) 平床栽培とした結果、生育・収量に影響を与え、4~5玉の正品が少なく未収穫・病害が多発したことで、高畝栽培は必須と考えられる。(表3)

表1 播種・施肥(前作:スイートコーン)

土壌分析値 PH:5.8 EC:0.03 CEC:22.4 リン酸:37mg/100g

石灰:412 mg/100g 苦土:38.3 mg/100g 加里:29.3 mg/100g

播種日	定植日	収穫	栽植密度(cm)		施肥量		要素量(kg/10a)				
			畝幅	株間	肥料銘柄	kg/10a	N	P	K	ホウ素	
7/18	8/4	10/5 ~ 10/12	65	60	基肥						
					NS222	100	12.0	12.0	12.0	0.5	
					S808	80	6.4	8.0	6.4		
					分肥						
					S444	45	6.3	1.8	6.3		
合計			2,564株/10a				24.7	21.8	24.7	0.5	

表2 発芽率・活着状況

品 種	発芽率(%)	活着率(%)
晴黄75	93.0	84.0
C0-540	89.3	70.5

表3 規格別収量

区	品 種	4玉	5玉	規格内計	規格外	未収穫	合計
		3.3kg~	2.0kg~		2.0kg未満	病害	
1	晴黄75	20.0	20.0	40.0	20.0	40.0	100.0
2	C0-540	20.0	20.0	40.0	20.0	40.0	100.0

一定区内における発生割合：各区20株調査し各項目に該当する割合(%)を算出した。

4玉規格平均 品 種	重量平均 (kg)	たて径 (cm)	よこ径 (cm)	芯高 (cm)	品質 しまり
晴黄75	3.5	31.5	22.0	3.1	良
C0-540	3.3	30.0	22.5	3.1	良

表4 病害虫防除

月 日	殺虫剤		殺菌剤		備 考
8/3			ネビリュウ	20kg/10a	土壌混和
8/4	オルトラン粒剤	2g/株			横穴処理
8/8			グリーンペンコゼブ水和剤	600倍	ナブ乳剤散布
8/14	ランネート45DF	1,000倍	スターナ水和剤	1,000倍	
8/18	チューンアップ顆粒水和剤	2,000倍	ダニコール1000	1,000倍	
8/22	モスピラン顆粒水和剤	1,000倍	バリダシン液剤5	500倍	
8/29	ランネート45DF	1,000倍	アタッキン水和剤	1,000倍	
9/1	チューンアップ顆粒水和剤	2,000倍	スターナ水和剤	1,000倍	
9/3	ベネビアOD	2,000倍	スターナ水和剤	1,000倍	
9/8	モスピラン顆粒水和剤	1,000倍	バリダシン液剤5	500倍	
9/11	ブレバソフフロアブル5	2,000倍	アタッキン水和剤	1,000倍	
9/16	ランネート45DF	1,000倍	バリダシン液剤5	500倍	
9/28	ブレバソフフロアブル5	2,000倍	ダニコール1000	1,000倍	

左 慣行品種 晴黄75

右 試験品種 C0-540



農業関係試験成績書

令和8年3月 印刷・発行

発行 岩見沢市

協力 空知農業改良普及センター
JAいわみざわ

編集 岩見沢市農業技術情報施設
土壌分析施設

北海道岩見沢市北村栄町591番地4

郵便番号 068-1204

電話番号 0126-56-2538

F A X 0126-56-2641

農業試験圃

北海道岩見沢市北村豊里675番地2

郵便番号 068-1205

電話番号 0126-56-2314

農業技術専門員

水稲・麦担当 西飯 弘行

大小豆・園芸担当 高崎 覚

土壌診断担当 菅原 敏治

植松 徹